

仙洞年代記

上皇と法皇の歴史

槇道雄著

八木書店

目次

緒言.....一

序章 執筆のプロローグ.....五

1 憲政史上最初の上皇.....七

2 立憲体制成立の背景.....九

3 伊藤博文の憲政方針.....一二

4 天皇讓位制の否定.....一五

5 皇室典範の成立.....二二

第一章 天皇号採用の前提.....三一

1 天皇号の多様性.....三三

2 天皇記成立の背景.....三八

3 大和政権成立と漢字伝来.....四二

4 大和政権首長の呼称.....五五

目次

5	天皇号の誕生……………	五九
第二章 院政の原初形態……………		
1	天皇号の不徹底……………	七九
2	皇祖母尊の重祚……………	八四
3	太上天皇号の成立……………	九〇
4	藤原不比等皇胤説……………	一〇〇
5	紫微中台の出現……………	一〇七
6	光明皇太后の皇権……………	一一四
7	上皇と天皇の上下関係……………	一二一
8	菩薩天子の出現……………	一三〇
9	高野天皇の崩御……………	一三五
10	太上天皇菩薩……………	一四二
11	和気清麻呂の伝説……………	一四五
12	伝説創作とその影響……………	一五二
13	光仁上皇と桓武天皇の確執……………	一六一
14	新王朝の軍事と造作……………	一六五

15	平城天皇の治世……………	一六九
16	嵯峨朝の二所朝廷……………	一七二
17	弘仁の変後の上皇……………	一七八
18	御霊信仰の定着……………	一八二
第二章 院号天皇の時代……………		
1	摂関政治の開始……………	二〇五
2	太上天皇の出現……………	二一二
3	陽成上皇と宇多法皇……………	二一七
4	院号天皇の出現……………	二二一
5	女院号の出現……………	二二八
6	摂関政治の確立……………	二三二
7	後三条天皇の治世……………	二三八
8	院政時代への移行……………	二四二
9	院政体制の確立……………	二五二
10	武者の世の到来……………	二五九
11	平清盛の台頭……………	二六六

12	後白河院政の再停止	二七二
13	高倉院政後の内乱	二八〇
14	日本国第一の犬養	二八七
15	後鳥羽院政の開始	二九三
16	上皇と関東武家政権	三〇一
17	承久の乱	三〇五
18	後高倉院政	三一
19	後嵯峨院政	三一六
20	両統迭立の開始	三二二
21	両統迭立期の院政	三三一
22	文保の御和談	三三八
23	建武新政期の両皇統	三四六
24	正平の一統	三五三
25	南北朝の合一	三六〇
26	伏見宮家の成立	三七〇
27	戦国乱世の院政	三七八
28	近衛前久の時代	三八八

29	豊臣・徳川政権下の院政	三九五
30	院号天皇の終焉	四〇五

第四章 院政形態の消滅…………… 四三三

1	朱子学の影響	四三五
2	江戸幕府の修史事業	四三九
3	水戸学の成立	四四六
4	院号・院政の否定	四五二
5	尊王論の展開	四五八
6	近代歴史学の成立	四六五
7	院政観の変容	四七六
	結語 摺筆のエピローグ	四八七

	追記	四九九
--	----	-----

	附録 上皇・法皇一覧	五〇〇
--	------------	-----

	人名索引	1
--	------	---

緒言

仙洞せんどうとは、不老不死の仙人が住むという「藐姑射山はここやざん」にある洞窟である。この「藐」とは、「遙はるかに遠い」という意味であるから、その想像上の山は「姑射山」ともいう。もともと、『莊子』内篇（逍遙遊）に由来するが、上皇（太上天皇）の御所も、それにちなんで仙洞（仙洞御所）と称し、また上皇をも指し示す語句となっている。莊周そうしゅう（尊称は莊子じ）の著書とされる『莊子』には、何ものにも束縛そくはくされない絶対的自由を求める思想が述べられているので、讓位（退位）した天皇である上皇の立場を表現する語句として使用されるようになったと思われる。

平安時代になって、上皇は、天皇の居住する内裏から離れて、冷然院れいぜんいん（のち冷泉院）や朱雀院すざくなどの別宮に居住するようになり、また上皇不在の場合にも、その別宮を後院ごいんとも称して管理するようになること、上皇の別称に「仙院」「院御門」「院御所」「院御方いんのおんかた」なども登場してくる。そこから、やがて単に「院」とも称され、同時期に複数の上皇が存在する場合には、讓位の先後によって本院または一院、ついで中院なつかいん・新院しんいんと称して区別することにもなった。そして、上皇が政務を執ることを、とくに院政と呼ぶようになる。ちなみに文化八年（二八一）頃に、頼山陽らいざんやうが著した『日本外史』平氏論賛に「院政・廟論」とみえるのが、「院政」の語句の初見とみられる。同書が、やがて出版され広く読まれるに及んで、歴史用語となったようである。

また、上皇が出家した場合には、法皇ほうわう（太上天皇）と呼称するが、「禪定法皇」「禪定仙院」、あるいは「法王」と表記していることもある。今日、一般的には、出家するということは、師僧から戒律を授けられて、世俗を離れるこ

とと考えられているようである。だが、かつては、必ずしもそうした場合だけではなかった。それについては、本文中で述べるとおりであり、法皇になっても上皇同様に院政を行うことはあったのである。

そもそも、自身の地位を他者に譲り、悠々自適の生活を送ることは、「隠居」と呼ばれるものである。それは、明治三十一年（一八九八）施行の民法に規定されたこともあったが、現行憲法が施行された昭和二十二年（一九四七）には、戸主制と共に法制上は廃止されている。ただし、この隠居の制度は、日本では、古来の慣行であり、『令義解』^{りようぎげ}によれば、官人は七十歳以上で「致仕」（^{ちし}辞職）できるとされ、明治の民法では「満六十歳以上」に達していることと、「完全の能力を有する家督相続人が相続の單純承認を為すこと」が条件ともされていた。しかしながら、本来、年齢には関係なく隠居していたようであり、隠居後に天皇を後見することなども慣例化していたとみられる。

ともかく、本書では、上皇および法皇の歴史全体をながめてみたいと思う。とはいえ、天皇についても無関係とはいかないので、その出現から歴代の皇位継承についても、可能な限り叙述する。そのうえで、なぜ現行の皇室典範^{こうしつてんぱん}においては、上皇と法皇の規定が見えなくなってしまうのかを、歴史的に解明したいと考える。それらのことを通して、少しでも上皇と法皇についての理解を深めていただければ幸甚である。

なお、叙述に当たっては、序章を除いて、引用史料は適宜読み下し文にして、読みやすいように配慮した。かつ片仮名書きを平仮名に改め、基本的には現代仮名遣いに改めている。ただし、史料によっては、当時の旧仮名遣いのままにした場合もあり、多少は史料の歴史上の雰囲気を残している。また、漢字についても、新字体に改めることを基本としたが、銭文などについては旧字体のままにしている場合もある。年齢については、明治憲法体制下であった時代までは、かつての慣例にならない数え年で数えているので、満年齢の数え方とは異なる。そのほか、明治五年（一八

七二)十二月二日までは旧暦(太陰太陽暦)であったので、月日はそれに従うが、括弧内の西暦年数も厳密には一年ずれる場合がある。年号表記については、天平勝宝七歳(七五五)から同九歳までは、「年」ではなく「歳」と記すなど、当時の記載方法に従っている部分もある。また、南北朝時代の年号は、記載内容によって南北両朝のどちらかの年号を用いている場合がある。

さらに、天皇名を「冷泉院」「円融院」などと、院号で呼称した時代についても、院号での記述は基本的に避けている。そのため、皇位についていた間は「天皇」、讓位してからは「上皇」、ついで出家したときからは「法皇」と各称号を使い分けることを基本としている。

序
章
執筆の
プロ
ロー
グ

1 憲政史上最初の上皇

平成二十八年（二〇一六）七月十三日、NHK（日本放送協会）や毎日新聞社などによって、当時の天皇陛下（現上皇陛下）が、「譲位（生前退位）」を御希望であるとの報道がなされた。これに対して、当初、宮内庁次長は報道内容を否定したものの、同年八月八日にはビデオを通じて「象徴としてのお務め^{つと}についての天皇陛下のおことば」が示され、御高齢のための御譲位に国民の理解が求められた。

その後、大方の国民の支持のもと、政府（第三次安倍晋三第二次改造内閣）も急いで対応を迫られ、翌年六月九日には「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」が成立し、同月十六日に公布された。また、その年十二月一日開催の皇室会議において、「天皇の地位と職務」は皇太子徳仁親王殿下（現天皇陛下）へと継承^{なるほど}され、その御即位をもって御譲位の御意向が達せられることになった。

こうして、平成の天皇陛下は、平成三十一年（二〇一九）四月三十日に御退位、翌五月一日に現天皇陛下の御即位が実現し、文化十四年（二八一七）三月二十二日（現行の新暦では五月七日）に、光格天皇が皇太子恵仁親王（仁孝天皇）に譲位して以来の上皇となられたのである。譲位による上皇の出現は、実に二〇二年ぶりのできごとであった。慶応四年（一八六八）九月八日（現行の新暦では十月二十三日）に発せられた一世一元^{みことあり}の詔では、明治への改元と共に天皇一代に元号一つと定め、昭和五十四年（一九七九）六月十二日公布・施行の元号法でも、その法制化がなされていたが、五月一日の現天皇陛下の御即位日に令和と改元されたことも記憶に新しい。

この一連の動きは、現上皇陛下の「お気持ち」に発したものであり、天皇陛下も御高齢になれば、全身全霊で「象

徴としての務め」を果たしていられることが難しいということだけではなく、「憲法に定められた象徴としての務めを十分に果たせる者が天皇の位にあるべきだ」ということから、憲法や皇室典範に定めるところの摂政を事実上否定するものといえよう。そして、この現上皇陛下の強い御意向は、ただ単に特例法として実現しただけではなく、今後の天皇制を考えていくうえで、大きな一石を投じられたものである。

そもそも、明治二十二年（一八八九）二月十一日に大日本帝国憲法の発布と共に制定された皇室典範では、「天皇崩スルトキハ皇嗣即子踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク」（第十条）としており、天皇の崩御によってのみ皇位継承が行われるものと定めていた。昭和二十二年（一九四七）五月三日に日本国憲法と共に施行された、新たな法律としての皇室典範でも、「天皇が崩じたときは、皇嗣が、直ちに即位する」（第四条）と定めているので、天皇の譲位による上皇の出現は想定されていなかったのである。

これは、天皇が成年に達しない時、重思または重大な事故により、国事に関する行為を御自身でできない時などには、摂政を置くことにしていたためであり、天皇の御高齢化を想定していなかったものと思われる。その後、昭和時代の後期には、昭和天皇の御高齢による御譲位問題と共に、一世一元の制の存続についても議論がなされたものの、結局、昭和五十四年（一九七四）に元号法が成立したのみで、結論は見送られて平成時代を迎えることになったのである。そのため、「象徴としてのお務めについての天皇陛下のおことば」を契機とする特例法による一連の動きは、大きな変化であったといえよう。昭和天皇の御在位は、六世紀前期の継体天皇以降の天皇の中では、最長の約六十二年間にも及び、また昭和天皇の御享年が、継体天皇以降最長の八十九歳（満八十七歳）であられたことからみれば、満八十五歳で御退位された現上皇陛下の御行為は御勇退といってもよいのであろう。

とにかく、象徴天皇制の現体制下において、天皇御自身が御意向を示され、それによって国事が動かされたということは、きわめて珍しいことである。

2 立憲体制成立の背景

このような経過をもって、憲政史上では最初の上皇が出現することになったのであるが、大日本帝国憲法下では何故に上皇を嫌っていたのであるのか。

これは、直接的には、明治時代に成立した立憲体制の確立に当たっては、伊藤博文の意向が強く反映されたからである。よく知られているように、自由民権運動が高揚するなかで、立憲体制への移行が避けられない世論となり、政府内でも重要課題となった。そのなかで、明治十四年（一八八一）三月以降、政府内では、イギリス流の立憲君主制や政党内閣制を主張する大隈重信が、早期の憲法公布と二年後の国会開設を要求するようになり、漸進的な改革を推進しようとしていた伊藤博文らと対立したのである。その頃には、明治天皇は満二十九歳近くに達していたことから、土佐藩出身の佐々木高行らの天皇親政論も登場するありさまで、政局は混迷をさわるようになった。さらに、同年七月末に、東京横浜毎日新聞などが、薩摩閥の北海道開拓使長官黒田清隆が、同じ薩摩藩出身の五代友厚に対して、格安の金額で官有物払下げを行う決定をしたとスクープしたため、自由民権運動は公然とした反政府運動へと変貌したのである。そのありさまは、本来政府系の御用新聞とみられていた東京日日新聞までが政府批判を行っているほどであり、各地で政府弾劾の演説会が開催され、政府内でも大隈が登用した大蔵官僚らが払下げ中止を求め、このスクープによる騒動は肥前藩出身の大隈が仕掛けたともみられたのである。

そのため、同年十月十一日開催の御前会議では、立憲政体に関する方針と官有物払下げの中止、さらに大隈免官を決定することになった。翌十二日には、十年後の明治二十三年（一八九〇）に国会を開設すること、また欽定憲法（君主により制定する憲法）とすることなどが詔（勅諭）として示された。こうした一連の動きのなかで、政府の主導権は薩摩藩と長州藩の出身者を中心とする薩長閥に握られるようになり、長州出身の伊藤博文が中核的存在になったのである。したがって、この明治十四年の政変は、政局全般に大きな影響を及ぼすことになったといえよう。

かつて、慶応三年十二月九日（新暦一八六八年一月三日）に発せられた王政復古の大号令により、江戸幕府に代わる新政府が樹立されることになったとき、同時に摂政・関白も廃絶され、明治天皇による天皇親政のたてまえとなった。だが、これは、前年十二月の孝明天皇の急逝を受けて、同年正月九日に満十四歳で皇位についたばかりの明治天皇にとっては過重な負担となったに相違なく、激動の新時代への対応を新政府主脳と協力してよく推進されたのである。また、明治十八年（一八八五）八月まで全国各地を巡幸されて、自由民権運動が活発に展開しているなかで、明治の新国家体制の象徴としての天皇像を一般国民に広く浸透させられたことは、立憲体制確立のためには大きな役割を演じられたものといえよう。

なお、摂政・関白の廃絶については、前天皇時代からの経緯がからんでいる。すなわち、明治天皇の皇位継承当初の頃は、孝明天皇時代の関白であった二条斉敬が、そのまま摂政に転じていたのであるが、この二条斉敬は、倒幕派からみると、久邇宮朝彦親王（中川宮の宮号でも有名）と共に、朝廷内では親幕派（公武合体派）の領袖と目されていたため、新政府を構成した反幕府勢力に嫌われ、彼らの排除のため摂政・関白は廃絶されたのであった。要するに、新政府には、旧幕府派勢力は不要とされたのであるが、それにともない若年の天皇を輔佐（補佐）するはずの摂政と

共に関白までが廃絶となったのである。

この後、憲政体制下で摂政の方は、皇族の就任を想定して規定され、実際に復活（大正十年十一月、長期間「御惱」がつづく大正天皇に代わり、当時満二十歳の昭和天皇が就任）するのであるが、関白については二条斉敬をもって最後となったのである。

それでも、明治の新体制は、慶応四年（二八六八）三月十四日（新暦四月六日）に、天神地祇を祭って天皇が発した五箇条の御誓文の第一条に「広く会議ヲ興シ万機公論ニ決スヘシ」とあることに則り、明治七年（二八七四）五月には議院憲法の勅命を発するに至った。これには、明治二年の版籍奉還、同四年の廃藩置県などの急速な変革や、征韓論（武力をもってしても朝鮮に開国をさせようとする外交論）と内地優先論（富国強兵や立憲体制樹立などが優先されるべきであるとの主張）の対立から発生した明治六年の政変（征韓論にくみした薩摩藩出身の西郷隆盛、土佐藩出身の板垣退助・後藤象二郎、肥前藩出身の江藤新平・副島種臣（あきしまむねおみ）らの半数に及ぶ参議と約六〇〇人ほどの官僚らが辞職した事件）などの政府内の混乱が続発したためもあって、必ずしもすみやかに当初の目標が達せられたわけではなかったが、憲法を定めて議院（国会）を開設する目標は失っていなかったのである。

さらに、明治八年（一八七五）四月には、改めて立憲政体樹立の詔書が発せられて、「漸次（ぜんじ）に国家立憲の政体」を樹立するための立法機関として元老院が新設され、翌年九月には国憲（憲法）の草案の起草を命ずる勅命が出された。しかしながら、その二度にわたる国憲草案（明治九年十月と十一年十月作成）は、当時の正院（せいいん）（廃藩置県後設置の行政機関、明治十年頃から内閣と呼称）では評価されず、不採用となったことで役割を果たせず、元老院はその後十年ほども存続したものの、明治二十三年（一八九〇）十月に帝国議会が開設されると廃止されたのであった。

3 伊藤博文の憲政方針

こうした事情の下で、政府内では薩摩閥の中心であった黒田清隆・西郷従道らと提携した伊藤博文が、立憲体制樹立を推進することになったのであった。

この伊藤博文といえ、長州藩の下級武士の出身でありながらも、吉田松陰が開いた松下村塾で学び、同藩の井上馨と親交を結んで、ともに文久三年（一八六三）にイギリスへ密航・留学した、いわゆる長州ファイブ（長州五傑）のひとりとして知られる。ただし、このイギリス滞在は、翌元治元年に英・米・仏・蘭の四国連合艦隊による長州藩攻撃が近いことを知ると、伊藤は井上馨と共に急ぎ帰国したため、半年ほどにしかすぎなかったが、伊藤は以後英語に堪能であったことから、明治新政府内でも殖産興業推進の中心として昇進した。

そして、伊藤は、明治四年（一八七二）九月から約二年間に及ぶ岩倉遣外使節団が派遣されたときには、副使として参加している。この使節団の目的は、江戸幕府が結ばされた不平等条約の改正予備交渉にあったが、同時に欧米諸国の先進文明を直に視察することにもあった。そのような中で、同六年三月には、二年前に成立したばかりのドイツ帝国の首都ベルリンを訪れ、ドイツ皇帝ヴィルヘルム一世（Wilhelm I）に謁見し、その宰相オットー・フォン・ビスマルク（Otto Eduard Leopold von Bismarck-Schönhausen）からも夕食に招かれたが、とくに小国であったプロイセン王国を軍備増強によって大國ドイツ帝国に成長させたビスマルクの言葉には、強い影響を受けたとされる。また、この使節団の正使であった公家出身の岩倉具視や、同じ副使として同行した薩摩藩出身の大久保利通とも親密になったことで、このときから政府内の主流派に加わっていくことになる。

それは、ヨーロッパでは後進国でありながらも台頭したドイツに注目することになり、富国強兵のスローガンの下、陸軍の軍制だけではなく、法制面でもドイツを模範としていく契機になったのである。⁽¹⁾

伊藤がとくに深い感銘を受けたビスマルクとは、もとはドイツ内の諸邦のひとつプロイセン王国の宰相であり、ドイツ諸邦統合のため、軍事力増強の軍制改革を推進し、その演説（「全ドイツがプロイセンに期待するのは自由主義ではなく武力である」）「現在の問題は演説や多数決によってではなく、鉄と血によってのみ解決される」という一八六二年九月三十日のプロイセン衆議院予算委員会での演説）から鉄血宰相と呼ばれることになる。当然のごとく巻き起こる議会内外の政党勢力や自由主義者などからの反対を押しきり、国王ヴィルヘルム一世の信任の下で、実に無予算統治という非常手段をとり、社会主義者や工場労働者らへの接近もはかりながら、たくみな外交を展開する。慶応二年（一八六六）には、ドイツ諸邦に介入していたオーストリア帝国を挑発して破ることで、議会で多数の支持をえるようになり、無予算統治に事後承認をえることができた。すると同年、ビスマルクは、北ドイツ連邦を成立させ、その翌年に発生したスペイン王位継承問題を契機に、明治三年（一八七〇）にフランスとの戦争が勃発すると、近代化した強力な軍隊を投入し、翌年早々には半年間をへずに勝利した。その結果、南ドイツ四邦国と交渉を行い、ドイツの南北諸邦の統合をはかり、プロイセン国王を初代皇帝とするドイツ帝国が成立したのであった。

後年「日本のビスマルク」と呼ばれるようになる伊藤は、それゆえに自分自身でヨーロッパにおける憲法調査を行う決心をしたとき、明治十五年（一八八二）に再びベルリンへおもむき、ベルリン大学の教授でドイツ帝国議会議員でもあったルドルフ・フォン・グナイスト（Heinrich Rudolf Hermann Friedrich von Gneist）や、その教え子に当たるアルベルト・モッセ（Albert Mosse）らから、君主権の強いドイツ憲法を学んでいるのである。また、オーストリア

ア・ハンガリー帝国の首都ウィーンにローレンツ・フォン・シュタイン (Lorenz von Stein) を訪ねて、国法学・行政学なども学んで、翌年八月初めに帰国した。

この伊藤の帰国直前の七月には、新政府発足以来の重鎮であった岩倉具視が歿していた。この岩倉は、明治二年(一八六九)の版籍奉還の献策者のひとりであり、その実施にともない旧公家・諸侯(大名)らは華族と称せられたが、岩倉自身は華族が政治に参加することには、強く反対していたことで知られる。そのため、伊藤らが将来の議会上院の設立に備えて、華族数を増員しようと構想したときにも、反対の立場を貫いていたのであった。したがって、この岩倉の死去も、伊藤にとっては、憲政体制樹立への足かせをはずすことになったといえよう。

こうして、明治十七年(一八八四)三月、伊藤は、宮中に制度取調局を設置すると、その長官(局長)となり、いよいよ憲法と皇室典範の起草作業にとりかかるのである。⁽²⁾

同年七月には、華族令を制定し、「国家に勲功ある者」を新たに華族とし、上から公爵・侯爵・伯爵・子爵・男爵の五爵位を、当初五〇九名に授けた。そのうえで、大日本帝国憲法では、帝国議会上院に相当する貴族院を設置して、華族は貴族院議員に就任する義務を負うものとしたのである。これは、華族を「皇室の藩屏」(皇室の守護勢力)にしようとするもので、ちなみに伊藤自身は、同じ長州藩出身の井上馨・山県有朋、薩摩藩出身の黒田清隆・西郷従道・大山巖らと共に伯爵となっている。

翌明治十八年(一八八五)に入ると、前年十二月に朝鮮で甲申政変(清国からの独立を求めるクーデター未遂事件)が勃発したことから、日清両国間での緊張が高まり、伊藤はその処理に奔走し、四月に清国全権李鴻章との間で天津条約を結んで、日清両国軍は朝鮮半島から完全に撤兵し、将来出兵するときは相互に通告することにした。だが、翌年

八月に長崎で清国北洋艦隊の水兵らが乱暴に及んで、日清双方で多くの死傷者を出す事件が起きるなど、日清両国の関係は悪化してきて、伊藤にとっては、憲政体制樹立を急ぐ必要を、ますます強く認識せざるをえなくなったといえよう。

こうしたなかで、伊藤が構想した立憲体制とは、やはりドイツ型の体制であり、下院（衆議院）ではたとえ反政府的勢力が多数を占めたとしても、天皇の信任の下で日清戦争に備えた軍備増強が可能となる体制であったものと考えられる。そのためには、天皇の権能は、強大であるべきで、かつ安定的に皇位は継承されなければならないと考えられたに相違ない。

4 天皇讓位制の否定

かつて明治十二年（一八七九）十二月には、各参議に立憲政体に関する意見書の提出が命じられ、同十四年五月までに七参議の意見書が提出されたが、それぞれの立場からのもので、意見のへだたりは大きかったのである。とくに大隈重信の意見は、前述したように、政府内においては過激なもので、明治十四年の政変の一因となってしまう。

その当時、意見書の提出を求めた岩倉具視自身も憲法意見書を提出しようと、ドイツ憲法にならった漸進主義を主張していた太政官大書記井上毅（熊本藩出身で明治初年にフランスやドイツで歴史法学などを研究した法制官僚）に調査・起草を命じていた。井上は、いわゆる御雇い外国人として来日していたドイツ人ヘルマン・ロエスレル（Karl Friedrich Hermann Roessler）の協力をえながら、明治十四年七月に岩倉具視憲法意見書を提出している。

そこには、憲法の欽定方針、各種の天皇大権、二院制など、予算が議会で承認されない場合の前年度予算執行制ま

で盛り込んでいた。これは、のちの大日本帝国憲法の基本方針をほとんど含んでいるものであり、当時すでに岩倉・伊藤らの政府内主流派の基本方針は定っていたようで、残された問題は細部にわたる調整であったろう。

一方、制度取調局成立の頃には、皇室法は憲法とは別立てとすることは決まっておらず、最初の本格的皇室法案とみなされる皇室制規では、起草者やその成立時期など不明な部分が多いのであるが、皇嗣の決定は天皇の意思などに左右されるものではなく成文化した法規を適用すると規定し、男系が絶えたときには直系の皇位継承を容認、長幼の序による庶出より嫡出の優先、皇嗣死歿の際の皇孫による代襲継承、天皇は十八歳で丁年（成人年齢）に到達することなどがみられる。また、天皇終身制（天皇の譲位の否認）についても、すでにみられ注目されることである。

ところで、明治十八年（一八八五）十二月には、明治初年以來の太政官を廃止して、新たに内閣制度が成立している。ただし、この制度は、今日の議院内閣制とは異なり、プロイセン王国では国王にのみ責任を負ったように、日本では天皇にのみ責任を負うもので、閣僚の選出は民主的な手段では行われないものであった。内閣総理大臣の人は、それまでも天皇を輔佐（補佐）してきた薩長閥の元老が担うことで始まった。

このときも、太政大臣に代わる内閣首班の総理大臣には、明治四年（一八七一）以来太政大臣の地位にあった公爵三条実美と、岩倉歿後の薩長閥の中心であった伯爵伊藤博文の二人が候補となったが、宮中での会議では、井上馨がこれからの総理大臣は「赤電報」（外国電報）が読めなくてはだめだと言い出したことから、山県有朋も「そうすると伊藤君より他にいないではないか」と発言し、つまりここでも英語の語学力が決め手となって、伊藤は総理大臣へと昇進することになったことはよく知られている。

その結果、内閣制度発足と同時に宮中には、内大臣（初代は三条実美）と宮中顧問官を置き、制度取調局は使命を

人名索引(れ～わ)

れ

靈元天皇(高貴宮識仁王・識仁親王, 素浄・上皇・法皇) 398, 404~410, 474
冷泉天皇(憲平親王・院・院上皇・天王・帝・御門) 3, 27, 219, 222~225, 230, 231, 234, 235, 418~420, 455, 456, 473
冷泉宮→頼仁親王
礼成門院(後京極院・西園寺禰子) 483
靈 帝 40, 43, 70, 71
レオポルド=フォン=ランケ(Leopold von Ranke) 475
廉義公→藤原頼忠
蓮 茂 223

ろ

良 弁 122
ロエスレル→ヘルマン=ロエスレル
ローレンツ=フォン=シュタイン(Lorenz von Stein) 14, 20
鹿苑院→足利義満
六条有光 348
六条院太上皇→宇多天皇
六条天皇(順仁親王) 272, 274
六条宮→雅成親王

わ

若狭局 298

幼武鹵→雄略天皇
獲加多支鹵大王→雄略天皇
稚野毛二派皇子 52
若林強齋 458
和氣王 136, 139
和氣朝臣広虫→和氣広虫
和氣清丸→和氣清麻呂
和氣清麻呂(磐梨別公・吉備藤野和氣真人・清丸・清麻呂・清麿・護王大明神・藤野別真人・別部穢麻呂・和氣清丸) 139, 140, 145~159, 160, 161, 163, 169, 194, 196~198, 488
和氣広虫(尼法均・法均尼・別部狭虫・別部広虫女) 128, 139, 140, 145, 148~150, 160, 161, 194~196
和氣広世 147, 163
和氣真綱 151
別部穢麻呂→和氣清麻呂
別部狭虫→和氣広虫
別部広虫女→和氣広虫
渡辺晃宏 194
和田宗実 306
和田義盛 301, 302, 306
渡会家行 361
王仁(和邇吉師) 41~44
和邇吉師→王仁
弘計王→顯宗天皇
袁祁命→顯宗天皇

遊義門院(始子内親王) 335
 融通王→弓月君
 雄略天皇(大長谷若建命・大泊瀬幼武天皇・獲加多支鹵大王・武・幼武鹵) 52, 56~58, 73
 勸子内親王 215
 弓削皇子 96
 弓削淨人 137, 140
 寬明親王→朱雀天皇
 寬成親王→長慶天皇
 寬宮惠仁親王→仁孝天皇
 茂仁王→後堀河天皇
 弓月王→弓月君
 弓月君(融通王・弓月王) 44, 45

よ

陽光院→誠仁親王
 雍公叔 63
 陽成天皇(貞明親王・院・上皇・帝・法皇) 185, 208, 209, 220, 221, 225, 251, 376, 404, 417, 418, 456
 煬帝 63~65, 74, 98, 130, 131, 472
 用明天皇(池辺大宮治天下天皇) 57, 60, 61, 76, 85, 86, 127
 陽明門院(禎子内親王) 219, 243~245, 259, 422, 483, 243
 楊侑→恭帝
 陽祿門院 323
 横田健一 196
 義江彰夫 425
 義江明子 190
 吉川惟足 458
 娟子内親王 244
 吉子内親王 409
 欣子内親王 412, 413
 禎子内親王→陽明門院
 与志古娘(車持国子君女・車持夫人) 103
 吉澤義則 190
 慶滋保胤 230
 吉田兼熙 369
 吉田兼好 337
 吉田定房 340, 342, 345, 429
 吉田松陰 12
 吉田為経 321
 吉田経俊 327
 吉田経長 327
 吉田経房 425

吉田冬方 342
 吉田宗房 369
 栄仁親王(大通院・通智) 201, 323, 363, 365, 371, 372
 好仁親王(高松宮) 397, 398
 良岑安世 201
 令宗允亮 211
 慶頼王 218
 四辻善成 340, 341
 四辻与津子 401, 402
 ヨハン=カスバル=ブルンチェリ(Johann Caspar Bluntschli) 22
 世仁親王→後宇多天皇
 頼仁親王(王・冷泉宮) 301, 306, 312, 424
 夜の関白→藤原顕隆

ら

頼源(讃岐房) 346
 頼山陽 1, 462
 鸞 43

り

李淵→高祖(唐)
 季延寿 60
 理覚→後伏見天皇
 李鴻章 14
 利光三津夫 139, 195
 李世民→太宗
 履中天皇 52, 473
 劉焉 50
 劉夏 45, 46
 劉復亨 328
 劉邦→高祖(前漢)
 了行 321
 良源 196
 龍肅 419, 428, 430
 良然→後鳥羽天皇
 良祚→正子内親王

る

ルートヴィヒ=リース(Ludwig Riess) 475, 479
 ルドルフ=フォン=グナイスト(Heinrich Rudolf Hermann Friedrich von Gneist) 13

も

孟子 439
 毛利季光 321
 毛利隆元 389
 毛利元就 389
 以仁王 280, 281, 284
 本居宣長 86, 87, 461, 477
 元田永孚 18, 438, 439
 幹仁王→後小松天皇
 物部守屋 66, 122
 桃園天皇(暹仁親王) 398, 411, 412, 411
 桃井直常 361, 364
 森有礼 480
 守邦王 336
 守貞親王(行助入道親王・後高倉院・後高倉法皇) 284, 296, 311, 312, 314, 316, 324, 377, 470
 守成親王→順德天皇
 守仁王→二条天皇
 守仁親王→二条天皇
 守平親王→円融天皇
 森三樹三郎 194
 森本公誠 133, 194
 守良親王(五辻宮・覚静) 347, 429
 護良親王(尊雲法親王) 345, 346, 349, 351
 師明親王 256
 師貞親王→花山天皇
 諸橋轍次 74
 文覚 197
 文親(弘真) 345, 429
 文德天皇 184, 185, 202, 205~207, 376, 418, 473
 文武天皇(藤原宮御宇大行天皇・珂瑠皇子・輕皇子・倭根子豊祖父天皇・帝) 19, 23, 33~35, 37, 92, 93, 96, 97, 100~102, 104, 105, 189, 190, 473, 483

や

陽侯氏雄 202
 八代國治 430
 保明親王(崇象親王) 218, 219
 媯子内親王→郁芳門院
 安田義定 284
 安野文統(宿禰) 95, 189
 康仁親王 343, 349, 382

懷仁親王→一条天皇
 柳沢吉保 408, 460
 柳原前光 18~21, 23
 柳原資明 18
 柳原資定 387
 柳原愛子 18, 483
 柳原紀光 18
 矢作常氏 321
 山内一豊 458
 山尾庸三 466
 山鹿素行 459, 460
 山県有朋 14, 16
 山県大弼 459, 461
 山崎闇斎 411, 458, 459
 山崎渾子 485
 山科言繼 392
 山背王 116
 山背大兄王 61, 85, 86
 山代之大筒木真若王 52
 山田重忠 310
 山田方谷 468
 倭武天皇→日本武尊
 日本武尊(倭武天皇・倭建命) 52, 54, 72, 81, 82
 倭建命→日本武尊
 倭迹迹日百襲姫命 51
 日本根子天璽豊聡慧尊→仁明天皇
 日本根子天高讓弥遠尊→淳和天皇
 日本根子天押国高彦尊→平城天皇
 倭根子豊祖父天皇→文武天皇
 倭漢直福因 67
 倭姫命 51, 52, 73
 山名氏清(六分一殿) 369
 山名宗全(持豊) 383, 284
 山名時氏 359, 364, 369
 山名持豊 380
 山内首藤経俊 299
 山部親王→桓武天皇
 山村王 127
 山本探淵 484
 山本義経 282

ゆ

融観→白河天皇
 結城氏朝 379
 結城持朝 379

源順子 185, 221
 源則清 300
 源則種 300
 源範頼 269, 285～288
 源博陸→源通親
 源 信 207
 源雅具 312
 源 益 208
 源道方 236
 源通子 296, 318
 源通親(源博陸) 294～298, 318
 源通宗 296, 318
 源満仲 223, 236, 421
 源光基 269
 源光保 269
 源師子 247
 源師房 239, 246
 源行家 280, 283～286, 289～292
 源 善 216, 217
 源能有 212, 213, 222
 源義家(八幡太郎) 269, 348, 379
 源義賢 283
 源義国 348
 源麗子 244, 247
 源義高 283, 288
 源義親 269
 源義経 269, 285～292
 源義朝 264, 267～269, 283
 源義仲 281, 283～288
 源義平(鎌倉惠源太義平) 269, 283
 源義康(足利氏の祖) 264
 源頼家 294, 298, 301, 305, 316, 441
 源頼親 421
 源頼朝(故右大將軍) 197, 268, 269, 281, 283
 ～285, 287～295, 299～304, 307, 405, 425,
 431, 436, 441, 452, 453, 489, 490
 源頼房 421
 源頼政 269, 281, 304
 源頼光 236
 源頼茂 304
 源頼義 431
 美努王 102, 111
 実仁親王→称光天皇
 躬仁親王→称光天皇
 美福門院(藤原得子) 244, 248, 260, 262, 263,
 267, 268, 281, 423, 452, 483

御船王→淡海三船
 壬生忠岑 217
 壬生基脩 464
 三宅尚斎 459
 宮崎市定 57, 73
 宮道弥益 417
 宮簀媛(宮酢姫・美夜受比売) 72
 明 雲 276, 286
 明恵(高弁) 426
 明基尼 139
 妙 冲 186
 三善長衡 307
 三好長慶 388, 390～392
 三善康信 320
 三善康持 320
 神太郎丸 418
 神良種 418

む

無学祖元 330
 無関普門 333
 無著(Asanga) 491
 夢窓疎石 356, 357, 363, 367
 胸形尼子娘(胸形徳善娘) 91
 統子内親王→上西門院
 宗尊親王 296, 321, 324, 325, 427
 宗仁親王→鳥羽天皇
 宗良親王(尊澄法親王) 345, 359, 369
 無範→光厳天皇
 村井貞勝 394
 村上天皇(覚貞・成明親王・帝) 196, 200, 219,
 220, 222, 223, 341, 456, 473
 紫式部 421
 村田正志 429
 室鳩巢 461
 牟漏女王 102, 106
 室町院(暉子内親王) 324

め

明元帝 156
 明皇帝→明帝
 明治天皇 9, 10, 28, 193, 266, 398, 416, 438,
 464, 474, 475, 483
 明正天皇(興子女王・興子内親王・上皇) 398,
 402～404
 明帝(明皇帝) 45, 47

人名索引(ほ～み)

細川澄元 388
 細川高国 386
 細川晴元 388
 細川政元 384～386, 388
 細川満家 378
 細川持常 380
 細川持之 380, 381
 細川幽斎(藤孝) 399
 細川頼之(常久) 365
 菩提遷那(Bodhisena) 289
 保立道久 189
 堀田正睦 464
 穗積親王 94, 105, 106
 法提郎女(蘇我法提郎女) 84, 85
 火雷天神→菅原道真
 誉田天皇→応神天皇
 堀川大臣→藤原兼通
 堀河天皇(院・善仁親王) 243～245, 247, 249,
 255, 259, 417, 422, 424
 堀敏一 75
 本郷和人 429
 洪茶丘 330
 本多正信 441

ま

前田利家 396
 真木和泉(保臣) 464
 牧方 299
 牧野成貞 408
 正子内親王(良祚) 180, 183～185
 昌子内親王 231
 雅成親王(六条宮) 306, 312, 321
 雅仁親王→後白河天皇
 正良親王→仁明天皇
 長宮慶仁親王→中御門天皇
 温仁親王 412
 益仁親王→崇光天皇
 末多王→東城王
 松菌斎 423
 松平定信 413～415, 438, 462, 463, 466
 松殿基房 244, 273, 278, 281, 282, 286, 290
 松殿師家 278, 279, 286
 松永久秀 390～392, 451
 松永久通 392
 松本郁代 430
 万里小路時房 377

万里小路宣房 342
 万里小路房子 398
 満濟 375

み

三浦胤義 306, 307
 三浦周行 430
 三浦光村 320
 三浦泰村 320
 三浦義村 301, 306, 308, 320, 321
 三上參次 481, 484
 東宮聖王→厩戸皇子
 水澤周 28
 路真人豊永 147
 方仁親王→正親町天皇
 道康親王 183, 184
 秀仁親王→四条天皇
 御堂閔白→藤原道長
 水無瀬親成 313, 314
 水無瀬信成 309, 313, 314
 南淵漢人請安 67
 南淵永河 236
 南村梅軒 458
 源昭子 185, 219, 222
 源顕房 243
 源明子 219, 240
 源在子→承明門院
 源有雅 314
 源潔姫 184, 185
 源惟康→惟康親王
 源定省→宇多天皇
 源実朝 298～301, 303, 305, 315, 441, 442
 源実頼 221～224
 源重信 233
 源資賢 271, 279
 源千寿丸 301
 源高明 223, 240, 417
 源隆国 256
 源為朝 264
 源為義 264, 280, 283, 285
 源親房→北畠親房
 源融 209, 211
 源俊明 247
 源俊賢 233, 236, 239
 源俊平 312
 源倫子 219, 238, 240

武則天→則天武后
 仏陀寿→朱雀天皇
 武帝(西晋) 47
 武帝(前漢) 49
 武帝(梁) 132, 194
 道祖王 93, 114, 115
 夫人藤原氏→藤原吉子
 武寧王(斯麻・斯摩・斯麻王・烏君) 55, 56
 船恵尺 38, 190
 船史恵尺→船恵尺
 文忌寸最弟 43
 豊楽門院 398
 古人大兄皇子 84～86
 武烈王(金春秋・太宗) 89
 武烈天皇 52, 56, 473
 不破内親王 93, 139, 162
 文宣王→孔子
 文智女王(梅宮) 401
 文忠公→藤原不比等
 文帝 60, 64, 74, 98, 130
 文室秋津 183
 文室邑珍→文室大市
 文室大市(邑珍・文室真人大市) 143, 144
 文室浄三 126, 143, 183, 194
 文室真人大市→文室大市
 文室宮田麻呂 184, 186, 202
 文室綿麻呂 176, 184

へ

平城天皇(安殿親王・小殿王・太上金輪皇帝・日本
 根子天推国高彦尊・上皇) 48, 166, 169
 ～180, 183, 185, 199, 200, 224, 236
 平城宮御宇後太上天皇→聖武天皇
 平城宮御宇中太上天皇→元正天皇
 平群木菟宿禰 44
 ヘルマン＝ロエスレル[Karl Friedrich Hermann
 Roesler](ロエスレル) 15, 24
 遍行→花園天皇

ほ

法果 156
 法基尼→孝謙天皇
 法均尼→和気広虫
 法興院→藤原兼家
 法師関白→寛助
 北条氏綱 386

北条氏康 391
 北条貞時 331, 332, 334, 342
 北条実時 319, 324, 342, 344
 法成寺関白→藤原道長
 北条重時 318, 324, 436
 北条高時(崇鑑) 342, 344, 345, 348, 351, 449,
 450
 北条高直 346
 北条経時 319, 320
 北条時章 327
 北条時輔 327
 北条時房 305, 315, 316
 北条時政 290, 291, 294, 298, 299, 302
 北条時益 347
 北条時宗 322, 324, 325, 327, 331
 北条時幸 320
 北条時行(中先代) 351, 359
 北条時頼 320, 321, 324, 327, 427
 坊城俊秀 380, 381
 北条仲時 347
 北条長時 324
 北条教時 327
 北条政子(尼御台所・二位家・二品禪尼) 294,
 298, 299, 301, 304, 305, 307, 308, 316
 北条政村 324, 325
 北条泰家 344, 351
 北条泰時 305, 308, 315, 316, 319, 320, 324,
 327, 353, 426, 436
 北条義時 299～306, 308, 309, 311, 314～316,
 318～320, 353, 426
 法の関白→寛助
 坊門忠信 300, 315
 坊門局(西御方・坊門信清娘) 301, 312
 坊門信清 299, 300
 坊門信清娘→坊門局
 坊門信子 299, 300, 301, 315
 坊門信忠 309
 坊門姫 307
 法蓮 133, 134
 北陸宮 284
 保科正之(土津靈神) 459
 星野恒 469, 475, 477, 478, 484
 蒲寿庚 428
 細川顯氏 359
 細川勝元 383, 384
 細川清氏 364

人名索引(ふ)

- 藤原全子 250, 422
 藤原真植 108, 185
 藤原真作 185
 藤原真夏 108
 藤原真徒 114
 藤原麻呂 107, 108
 藤原御植 122, 126
 藤原道兼 108, 219, 230, 232, 236
 藤原通季 249
 藤原道隆 108, 219, 231, 232, 234
 藤原道綱 108, 236
 藤原道長(行覚・行観・法成寺閨白・御堂閨白)
 108, 219, 224, 232~238, 240, 241, 243, 244
 藤原通憲→藤原信西
 藤原美都子 184, 185
 藤原光子 247, 249
 藤原光雅 227, 419
 藤原三守 184, 236
 藤原宮御宇大行天皇→文武天皇
 藤原宮御宇太上天皇→持統天皇
 藤原宮子 93, 100, 102, 108
 藤原武智麻呂 107~109, 184, 185
 藤原宗子→池禪尼
 藤原宗忠 250~253
 藤原宗俊 250, 422
 藤原宗成 250, 251
 藤原宗通 261
 藤原宗能 250, 251
 藤原元方 222
 藤原原子 231
 藤原基子 244
 藤原基隆 253
 藤原基経(昭宣公) 108, 184, 185, 208~212,
 215, 219, 221, 226, 231, 416
 藤原基成 266, 267, 292
 藤原基平 244
 藤原基房 274, 422
 藤原百川(雄田麻呂) 108, 146~148, 156,
 157, 160, 161, 164, 166, 168, 172, 185, 195,
 199
 藤原盛子 219
 藤原師子 244
 藤原師実 108, 219, 237, 241, 243~248, 255,
 454
 藤原師輔 74, 108, 185, 196, 215, 219, 222~224,
 230
 藤原師高 275, 277
 藤原師経 275
 藤原諸姉 172
 藤原師房 244
 藤原師尹 223
 藤原師通 244, 247, 422, 423, 454
 藤原穩子 215~219
 藤原安子 219, 222, 229
 藤原泰子→高陽院
 藤原保忠 218, 219
 藤原保則 212, 419
 藤原泰衡 267, 292, 431
 藤原行成 336
 藤原刷雄 128, 194
 藤原良門 417
 藤原能兼 296
 藤原吉子(夫人藤原氏・夫人) 172, 174, 175,
 186
 藤原淑子 209, 210
 藤原温子 211
 藤原仁善子(保明親王妃) 218
 藤原嬉子 219
 藤原妍子 219, 235, 237
 藤原祇子 230, 233
 藤原娥子 235, 240
 藤原歆子 240
 藤原栄子 249
 藤原悦子 249
 藤原勲子→高陽院
 藤原泰子→高陽院
 藤原義懐 230, 231
 藤原良継(宿奈麻呂) 108, 109, 126, 146, 161,
 163, 164, 166, 172, 185
 藤原善時 223
 藤原吉野 108, 183, 201, 205
 藤原能信 108, 219, 236, 240, 241, 244, 246,
 422
 藤原良房(忠仁公) 108, 183~185, 205, 207,
 208, 226, 231, 255, 417
 藤原頼忠(廉義公) 228~231
 藤原頼長 261~266, 422
 藤原頼通 108, 219, 236~241, 243, 244, 256,
 424, 425
 藤原頼宗 108
 敷政門院(庭田幸子) 323, 376, 377
 布施御主人→阿倍御主人

- 藤原純友 220
 藤原園人 108, 170, 175
 藤原隆家 108, 219, 233, 234, 267
 藤原高子 185, 208, 209
 藤原鷹取 165
 藤原孝長 382
 藤原高藤 249, 416, 417
 藤原威子 219, 237
 藤原忠実 244, 247~250, 252, 253, 260, 261, 264, 265, 274, 422, 423, 425
 藤原忠重 272
 藤原忠隆 253, 266
 藤原忠親 197
 藤原齊敏 108
 藤原繩主 169, 170
 藤原齊信 236
 藤原忠平(貞信公) 108, 185, 219~222, 226, 235, 318
 藤原忠通 244, 247, 248, 251, 261~268, 271, 424
 藤原忠宗 249
 藤原立子 261
 藤原胤子 185, 416, 417
 藤原殖子→七条院
 藤原種継 108, 162, 164, 165, 169, 197
 藤原旅子 146, 166, 167, 185
 藤原璋子→待賢門院
 藤原為房 249
 藤原為光 230, 233, 234, 236, 271
 藤原親子 246
 藤原千晴 223
 藤原繼繩 108, 127, 153, 166, 172
 藤原綱継 108
 藤原経子 277
 藤原超子 219, 230, 231
 藤原時姫 219
 藤原時平 108, 185, 212, 213, 215~219
 藤原俊家 422
 藤原俊房 244
 藤原豊成 108, 118, 128
 藤原豊彦 108
 藤原鳥養 108
 藤原長家 108
 藤原長方 282
 藤原長実 244, 260
 藤原永手 108, 109, 137, 140, 146, 157, 163
 藤原仲成(観察使) 108, 169, 170, 172, 173, 175, 176, 186
 藤原脩範 280
 藤原仲麻呂(えみの大臣・惠美押勝・藤原惠美朝臣押勝) 35, 107~109, 112~120, 122, 125~128, 137~139, 142, 145, 153, 154, 162, 192~194
 藤原長良 108, 184, 185, 208
 藤原生子 240
 藤原得子→美福門院
 藤原成子(高倉三位局) 281
 藤原成親 268, 269, 271, 276, 277
 藤原濟時 229, 235
 藤原如実→藤原兼家
 藤原順子 183, 185
 藤原遵子 231
 藤原陳子→北白河院
 藤原信親 267, 269
 藤原信頼 266~269, 271
 藤原範兼 296, 297
 藤原範子 294
 藤原憲輔 237
 藤原教長 265
 藤原教通 108, 219, 240~244
 藤原浜成 108, 162
 藤原秀郷 223
 藤原秀澄 306, 309
 藤原秀衡 267, 285, 292
 藤原秀宗 306
 藤原秀康 306, 307
 藤原秀能 306
 藤原寛子 219, 240
 藤原広嗣 108, 109, 112, 113, 186, 191, 192, 198
 藤原房前 106~108, 110, 115, 122, 185, 418
 藤原夫人→藤原吉子
 藤原不比等(淡海公・文忠公) 93, 94, 100~108, 110, 111, 115, 118, 190, 191
 藤原冬緒 108
 藤原冬嗣 108, 175, 177, 178, 183, 185, 201, 205, 246, 415
 藤原法彦 162
 藤原真雄 176
 藤原方子 244
 藤原雅実 244
 藤原多子 261

人名索引(ふ)

- 藤原顕房 244
 藤原顕頼 252, 262, 266, 267, 423
 藤原明子 184, 185, 202, 205
 藤原朝子 268
 藤原愛発 183
 藤原在衡 454
 藤原家緒(家雄) 205
 藤原家忠 248, 249
 藤原家成 262, 264, 268, 275, 276, 423
 藤原家保 244, 249, 262, 423
 藤原伊良豆壳→藤原宇比良古
 藤原魚名 108, 109, 133, 165, 417
 藤原内麻呂 108, 185
 藤原宇比良古(藤原伊良豆壳・藤原袁比良)
 122, 125
 藤原宇合 81, 107, 108, 169, 185
 藤原惠美朝臣押勝→藤原仲麻呂
 藤原小黑麻呂 108, 418
 藤原雄田麻呂→藤原百川
 藤原緒嗣 108, 167, 168, 199, 205, 206
 藤原乙春 185, 209
 藤原乙麻呂 108
 藤原乙牟漏 108, 166, 174, 177, 178, 185
 藤原帯子 167, 171
 藤原袁比良→藤原宇比良古
 藤原雄依 163
 藤原楓麻呂 108
 藤原賢子(大式三位) 243, 244, 251, 270, 421
 藤原葛野麻呂 108, 171, 176, 236
 藤原兼家(如実・法興院) 108, 219, 228~232,
 236, 244
 藤原懐子 219
 藤原兼子→卿局
 藤原兼綱 236
 藤原懐平 236
 藤原兼通(忠義公・堀川大臣) 108, 219, 228,
 229, 233
 藤原鎌足→中臣鎌足
 藤原辛加知 127
 藤原行覚→藤原道長
 藤原行観→藤原道長
 藤原清河 108
 藤原聖子→皇嘉門院
 藤原清貫 216, 218, 419
 藤原清成 108
 藤原公実 244, 247, 249, 281
 藤原公季 244, 246, 422
 藤原公成 244, 246
 藤原公能 261, 263
 藤原菓子 108, 169, 170, 172, 173, 175~177,
 179, 200
 藤原邦綱 422
 藤原藏下麻呂 108, 169
 藤原光明子(安宿媛) 93, 108, 110
 藤原巨勢麻呂 185
 藤原児徒 122
 藤原惟方 267~269
 藤原是公 108, 164, 172
 藤原惟成 230, 231
 藤原伊周 108, 219, 231~234
 藤原伊尹(謙徳公) 108, 219, 226, 228~230
 藤原伊通 261, 266, 271~273
 藤原定家 225, 280, 300, 313, 314, 336, 337,
 425
 藤原定員 427
 藤原定国 216, 217
 藤原定子 108, 219, 231, 232, 234
 藤原社子 244, 246, 422
 藤原実兼 262
 藤原実季 244, 246, 247
 藤原実資 108, 233, 239, 420, 422
 藤原実成 244, 422
 藤原実能 249
 藤原実頼(清慎公) 108, 185, 226, 228, 229,
 233, 236, 420
 藤原沢子 185, 209
 藤原茂子 219, 244, 246
 藤原苺子 244, 247, 259
 藤原重子→修明門院
 藤原成範 280
 藤原呈子→九条院
 藤原信西(藤原通憲・藤通憲) 255, 262, 267,
 268, 271, 275, 276, 279, 280, 453, 457
 藤原季綱 255, 262
 藤原季成 281
 藤原末茂 108, 165
 藤原菅根 216, 217, 222
 藤原宿奈麻呂→藤原良継
 藤原祐子 296
 藤原祐姫 222
 藤原資房 239
 藤原佐世 210, 211, 416

ひ

稗田阿礼 48
 東久世通禧 19, 20, 464
 東三条院(藤原詮子) 108, 196, 219, 230～232,
 236, 239, 240, 245, 483
 東山天皇(朝仁親王・五宮・上皇) 398, 406
 ～409, 409
 氷上川継 162～165
 氷上塩焼→塩焼王
 氷上志計志麻呂 139
 比企朝宗の娘(姫前) 302
 比企能員 298
 樋口兼光 285
 彦坐王 52
 彦主人王 52
 彦仁王→後花園天皇
 久明親王 332, 336
 久仁親王→後深草天皇
 土方久元 18, 20
 ビスマルク→オットー＝フォン＝ビスマルク
 黒的(ヒズル) 325
 氷高内親王→元正天皇
 敏達天皇 60～62, 85, 102, 111, 147
 秀宮良仁親王→後西天皇
 英仁王→後桃園天皇
 英仁親王→後桃園天皇
 尾藤二洲 438
 一橋治濟 415
 日並皇子→草壁皇子
 日並知皇子命→草壁皇子
 日野有光(祐光) 381
 日野氏光 351
 日野資勝 403
 日野資朝 342, 345
 日野資名 350, 352, 360
 日野俊光 342, 350
 日野俊基 342, 345
 日野業子 373
 日野広光 382
 日野康子→北山院
 日野栄子 373
 日葉酢媛命 73
 美福門院→みふくもんいん
 卑弥呼 46～48, 50, 51, 53, 73
 卑弥弓呼 46

姫前 318
 平泉澄 429
 平賀朝雅 299, 306
 平田篤胤 461
 平野邦雄 161, 198
 彦子→宣仁門院
 広中親王 222
 熙成親王→後龜山天皇
 広橋兼勝 400
 広橋兼仲 329
 広橋兼宣 374
 広橋兼秀 387
 広橋仲子→崇賢門院 368
 熙仁王→伏見天皇
 熙仁親王→伏見天皇
 広姫 61, 85
 檜皮姫 320
 忻都(ヒンドウ) 330

ふ

武→雄略天皇
 武王 148
 不空三蔵 156
 福田豊彦 426
 服藤早苗 421
 武皇后→則天武后
 成仁王→後土御門天皇
 成仁親王→後土御門天皇
 藤井右門 459
 藤井一二 192
 葛井藤子 172
 葛井道依 172
 藤沢清親 308
 藤田東湖 447, 463
 藤田幽谷 447, 448
 藤野別真人→和気清麻呂
 伏見天皇(熙仁王・熙仁親王・上皇・法皇) 322
 ～324, 329, 332～339, 341, 362, 428
 無準師範 319
 藤原惺窩 440, 442
 藤原彰子→上東門院
 藤原詮子→東三条院
 藤原顕季 244, 246, 249
 藤原顕輔 244
 藤原顕隆(夜の関白) 249～252, 261, 262,
 282, 423

人名索引(に～は)

庭田重有 323
 庭田重賢 323
 庭田重資 323
 庭田資子 323
 庭田経有 323
 庭田盈子 323
 庭田幸子→敷政門院
 仁賢天皇(意祁命・億計王・意富祁命) 52, 83, 497, 498
 仁孝天皇(惠仁親王・寛宮惠仁親王) 7, 398, 413, 415, 435
 仁德天皇(大鷦鷯天皇) 45, 52, 110, 473
 仁明天皇(正良親王・日本根子天璽豊聡慧尊) 179, 180, 182~185, 202, 205, 209, 223, 224, 473

ぬ

額田王 93
 糠手姫皇女(鳥皇祖母命・田村王・宝王・糠代比売王) 85, 87
 糠代比売王→糠手姫皇女
 鐸石別命 149
 沼間守一 478

の

後中書王→具平親王
 後廢帝→仲恭天皇
 能登内親王 163
 順仁親王→六条天皇
 昇子内親王 295
 式子内親王 292
 法主王→厩戸皇子
 憲仁王→高倉天皇
 憲仁親王→高倉天皇
 憲平親王→冷泉天皇
 義良親王→後村上天皇

は

ハーン→小泉八雲
 裴清 59
 裴世清 64, 65
 廢帝→仲恭天皇
 芳賀禪可(高名) 364
 波伎豆 149
 伯夷 148
 白居易(楽天) 237

麥文彪 426
 羽柴秀吉→豊臣秀吉
 間人皇后→間人皇女
 間人皇女(間人皇后) 84, 85, 87, 88
 橋本義彦 175, 200
 畠山国清 361, 364
 畠山重忠 298, 299
 畠山直宗 357
 畠山政長 383
 畠山満家 381
 畠山持国 381, 383
 畠山義就 383
 八条院(暲子内親王) 244, 260, 262, 281, 288, 289, 422
 八条宮→智仁親王
 八幡太郎→足利義久・源義家
 御肇国天皇→崇神天皇
 服部英雄 427
 バトリック=ラフカディオ=ハーン(Patrick Lafcadio Hearn)→小泉八雲
 花園天皇(富仁親王・遍行・院・上皇・法皇) 323, 336, 338, 339, 341~343, 346, 347, 349, 351, 354, 355, 371, 428, 474
 塙忠宝 466
 塙保己一 466
 葉室定嗣 321
 葉室光親 314
 葉室宗行 314
 林鶯峰(春齋) 443~446, 484
 林錦峯 438
 林春齋→林鶯峰
 林道春→林羅山
 林信勝→林羅山
 林鳳岡 438
 林羅山(道春・信勝) 437, 438, 442, 443, 445, 484
 原潔 485
 春名宏昭 175, 177, 200
 治仁王 323
 班固 49
 班昭 49
 反正天皇 52
 半帝→仲恭天皇
 班彪 49
 潘阜 325
 范文虎 330, 331

豊耳聡聖徳→厩戸皇子

頼阿 337, 364

な

尚仁親王 452

直仁親王(光厳天皇皇子) 323, 354, 355, 358,
359, 361~363, 371

直仁親王(閑院宮) 398, 406, 409, 412

永岡敦 485

長尾景虎→上杉謙信

長尾為景 386, 387

長尾輝虎→上杉謙信

長尾晴景 387, 389

班子女王 185, 209, 210, 215

長崎円喜→長崎高綱

長崎高資 342, 344, 345

長崎高綱(円喜) 332, 342

長崎光綱 332

中科巨都雄 153

長親王 126

仲資王 299

中先代→北条時行

仲津姫命 181

中臣金 101

中臣鎌子→中臣鎌足

中臣鎌足(中臣鎌子・藤原鎌足) 86, 88, 101,
103, 106, 107, 115, 190, 191

中臣習宜阿曾麻呂 140, 145

中西康裕 152, 197

中院通勝 399

中院通純 403

中院通村 403

中大兄皇子→天智天皇

仲野親王 209

中原章賢(是円房道昭) 353

中原清弘 272

中原広元→大江広元

中原基兼 276

中原師尚 227

中御門天皇(長宮慶仁親王) 398, 407~410

中御門宣明 350

中御門宣衡 403

中村雅真 69

中村正直 439

長屋王 106, 107, 110, 116, 187

中山忠親 70

中山忠能 464

中山愛親 415, 463

中山慶子 483

名越高家(北条) 346

名越光時(北条) 320, 327, 427

難升米 45

難波皇子 147

鍋島直茂 396

奈羅訳語恵明 67

成明親王→村上天皇

体仁親王→近衛天皇

成良親王 350, 350, 351, 353

徳仁親王 7

名和長年 346, 352

南解次次雄 72

南浦文之 440

に

二位家→北条政子

新田部親王 93, 114~116

二階堂貞宗 337

二階堂行春 356, 357

錦小路頼徳 464

西御方→坊門局

西本昌弘 198

二条院(章子内親王) 245

二条為氏 337

二条為定 341

二条為世 337, 341

二条天皇(守仁王・守仁親王・院) 262, 263,
267, 268, 270~272, 274, 281, 457

二条齐敬 10, 11

二条道平 347, 429

二条持基 376

二条康道 403

二条良実 296, 318, 321

二条良基 360, 364, 367, 373, 376

仁木義長 364

新田義興 359

新田義貞 348, 349, 351, 352, 355, 359

新田義宗 359

日本国王源道義→足利義満

日本国王良懐→懐良親王

日本国准三后源道義→足利義満

二品禅尼→北条政子

入道親王道欽→貞成親王

人名索引(と)

洞院公季 225
 洞院満季 376
 道鏡 122, 123, 128, 136~142, 145~148,
 151~158, 160, 170, 197, 198, 451, 489
 道欽→貞成親王
 道慶 427
 東重胤 300
 道昭(道照) 189, 190
 東城王(末多王) 56, 57
 道遼 201
 道璿 35
 藤堂高虎 402, 440
 東野治之 76
 藤通憲→藤原信西
 東福門院(徳川和子) 398, 401~405
 道平 156
 道法法親王 275
 十市皇女 93
 暹仁親王→桃園天皇
 遠山元浩 430
 言仁親王→安徳天皇
 量仁親王→光厳天皇
 土岐光経 286
 土岐光長 286
 時康親王→光孝天皇
 土岐康行 369
 世良親王 343
 齊世親王(真寂) 216, 217
 土岐頼兼 342
 土岐頼遠 356, 357
 土岐頼行 402
 常磐井宮全明王→全明親王
 常盤光長 425
 徳一 194, 201
 徳川家継(世良田鍋松) 409
 徳川家綱 443, 444, 459
 徳川家斉 413, 415
 徳川家宣 409
 徳川家治 412, 413
 徳川家光 402~404, 443, 451
 徳川家茂 464
 徳川家康 394, 396, 397, 399~401, 437, 441,
 442
 徳川綱吉 408, 438, 460
 徳川斉昭(源斉昭・烈公) 27
 徳川秀忠 400~403

徳川和子→東福門院
 徳川光圀 444, 445, 447, 451, 452, 459, 461
 徳川吉宗 410, 461
 徳川頼房(威公・源威公) 445, 459
 徳大寺円覚→徳大寺実基
 徳大寺公城 411, 412
 徳大寺実時 370, 371
 徳大寺実則 246
 徳大寺実基(円覚) 321, 325, 327
 徳大寺実能 244, 261, 266
 徳大寺幸子 261, 263
 徳大寺忻子 263
 刀自古郎女 61
 都市牛利 45
 智仁親王(八条宮) 396~399
 杜世忠 329, 330
 戸田忠寛 413
 独孤皇后 74
 舍人親王(崇徳尽敬皇帝) 93, 94, 107, 114,
 115, 120, 121, 136, 449
 鳥羽僧正→覚猷
 鳥羽天皇(空覚・宗仁親王・院・上皇・帝・法皇)
 244, 247~249, 251, 253, 255, 256, 259~265,
 268, 274, 281, 422, 423, 450, 453, 457
 登美藤津 177
 富仁親王→花園天皇
 倫子女王 412
 伴清繩 207
 伴健岑 182~184
 伴中庸 207
 伴善男 207
 兼仁親王→光格天皇
 知仁親王→後奈良天皇
 具平親王(後中書王) 200, 244
 台与→壺与
 豊国大明神→豊臣秀吉
 豊鍬入姫命 51, 52
 豊田裕章 426
 豊臣鶴松 396, 397
 豊臣秀次 394, 395, 397
 豊臣秀吉(羽柴秀吉・豊国大明神) 393~397,
 399, 440, 451
 豊臣秀頼 397, 399, 400
 豊聡耳法大王→厩戸皇子
 豊仁親王→光明天皇
 豊御食炊屋比売命→推古天皇

田原天皇→施基皇子
 田村王→糠手姫皇女
 為子内親王 185, 213, 215
 為仁王→土御門天皇
 為平親王 223
 帶仲彦天皇→仲哀天皇
 多利思比狐→阿每多利思比狐
 善仁親王→堀河天皇
 淡海公→藤原不比等
 丹後局(高階榮子) 280, 284, 293, 294
 談天門院 323
 丹波忠守 341
 丹波親秀 312
 親仁親王→後冷泉天皇

ち

智 顛 201
 千種顯經 359
 千種忠顯 346, 352, 359
 智努王(知努王) 126
 茅渟王 85
 千葉常胤 431
 千葉秀胤 320, 321
 千葉頼胤 321
 枕流王 48
 仲哀氣長足姫皇后 449
 仲哀天皇(帶仲彦天皇) 45, 51, 52, 79, 82,
 411, 429, 449, 473
 紂 王 148
 中和門院(近衛前子) 395, 397, 398
 忠義公→藤原兼通
 仲恭天皇(懷成親王・九条の廢帝・九条廢帝・後廢
 帝・廢帝・半帝) 296, 305, 306, 311, 318,
 446, 457, 474
 忠仁公→藤原良房
 中 宗 99, 155
 中台天平心真仁正皇太后→光明皇后
 忠烈王 427
 長慶天皇(金剛理・寛成親王) 323, 365, 368,
 369, 430, 474
 張 衡 84
 張楚金 63
 張即之 336
 齋 然 82, 83
 張 陵 50
 趙良弼 327, 328

張 魯 50
 珍 58
 陳 寿 46
 鎮 世 418

つ

通智→榮仁親王
 通陽門院(三条嚴子) 323, 368, 372
 都加使主 43
 筑井高重 310
 土御門定通 318, 321
 土御門天皇(為仁王・上皇) 295, 296, 306,
 311, 312, 318, 422
 恒明親王 382, 430
 恒敦王(小倉宮) 374
 恒貞親王(恒寂) 179, 180, 183~185, 201, 209
 常仁親王 322
 恒仁親王→龜山天皇
 恒良親王 352
 角田文衛 124, 193
 坪内逍遙 480

て

程 頤 437
 鄭 玄 472
 亭子院→宇多天皇
 梯 儁 46
 貞信公→藤原忠平
 鉄穆耳 331
 寺島宗則 23, 24, 439
 昭仁親王→桜町天皇
 天英院(近衛熙子) 409
 天 海 403
 天智天皇(近江天皇菩薩・葛城皇子・中大兄皇
 子) 38, 68, 84~91, 93, 101~103, 106,
 146, 152, 161, 168, 188, 190, 191, 205, 225,
 449, 472, 488
 天皇大友→弘文天皇
 天武天皇(飛鳥浄原宮御宇天皇・大海人皇子)
 33, 34, 84, 85, 87, 88, 90~94, 99, 100, 104,
 115, 118, 126, 152, 156, 160, 161, 168, 188,
 189, 445, 449

と

外池昇 484
 洞院公賢 361

人名索引(た)

平頼綱(杲円) 332
 平頼盛 288, 312
 高岳親王(真如) 171, 172, 176~178, 200
 高倉兼子 296
 高倉天皇(憲仁王・憲仁親王・上皇) 271, 273
 ~275, 277, 278, 280~282, 284, 296, 422
 高倉範子(刑部卿局) 296, 297
 高倉範季 296, 297
 高倉範茂 314
 高階為家 421
 高階為行 421
 高階経敏 262
 高階成章 421
 高階成忠(道観) 233
 高階業房 421
 高階師直→高師直
 高階泰経 290, 291
 高階栄子→丹後局
 高杉晋作 464
 鷹司兼平 321, 325, 327
 鷹司輔平 413
 鷹司冬教 347
 鷹司基忠 327
 高野天皇→孝謙天皇
 高野新笠 147, 166
 高野姬天皇→称徳天皇
 高橋慎一郎 427
 高橋虫麻呂 81
 高橋義彦 432
 尊治→後醍醐天皇
 尊治親王→後醍醐天皇
 高仁親王 402
 尊仁親王→後三条天皇
 隆姬女王 239, 244, 424
 尊成親王→後鳥羽天皇
 高松院 244
 高向漢人玄理 67
 高山彦九郎 462
 尊良親王 345, 351, 352
 宝女王→皇極天皇
 宝皇女→皇極天皇
 宝王→糠手姫皇女
 沢庵宗彭 402
 田口卯吉 477, 478
 建稲種命(建稲種公) 72
 竹内理三 74

竹崎季長 328
 武田時昌 426
 武田信豊 388
 武田祐樹 484
 高市皇子 91, 92, 94, 96, 107
 竹 殿 318
 武渟川別命 72
 竹内式部→竹内敬持
 竹内敬持(式部) 411, 412, 459
 竹御所(源鞠子) 301
 武埴安彦命 52, 53
 武生連真象 43
 多治比文字 418
 多治比国人 117
 多治比古王 189
 多治比島(志摩) 92, 189
 多治比真宗 173
 多治見国長 342
 太上天輪皇帝→平城天皇
 手白香皇女 52, 61
 忠成王 318
 政仁親王→後水尾天皇
 多田行綱 276, 284
 橘嘉智子 180, 183~186, 418
 橘佐為(佐為王) 102
 橘敏延 223
 橘仲皇女 61
 橘奈良麻呂 116~118, 128, 153, 186
 橘逸勢 180, 183, 186, 202
 橘広相 210~213, 216
 橘三千代 106
 橘以政 202
 橘諸兄(葛城王・葛木王) 94, 102, 111, 112,
 114, 192
 橘義子 211, 216
 立原翠軒 447, 448
 脱解尼師今 72
 田中陽子 195
 田中義成 481
 田辺百枝 195
 太奈良姫→神功皇后
 谷時中 458
 丹波之河上之麻須郎女 73
 丹波道主命 72, 73
 田沼意次 412, 413
 胤仁親王→後伏見天皇

千幡→源実朝
 全明親王(常磐井宮全明王) 381, 382
 宣陽門院(觀子内親王) 292～294, 324

そ

蘇因高→小野妹子
 蒼玉門院 398
 莊周(莊子) 1
 増守の娘 421
 宗 性 68, 326
 莊襄王 97
 宗助国 328
 曹 操 445
 宗孝言→惟宗孝言
 藻壁門院(九条罇子) 296, 317
 副島種臣 11
 素覚→後嵯峨天皇
 蘇我赤兄 90
 蘇我稲目 61, 62
 蘇我入鹿 38, 61, 86
 蘇我馬子(嶋大臣) 38, 60～62, 67, 84, 445
 蘇我蝦夷(蘇我臣蝦夷) 38, 61, 86, 190
 蘇我遠智娘 85
 蘇我臣蝦夷→蘇我蝦夷
 蘇我法提郎女→法提郎女
 蘇我姪姫 85
 則天→則天武后
 則天皇后→則天武后
 則天武后(則天・則天皇后・武皇后・武后・武則天) 63, 98, 99, 113, 155～157, 195, 451
 素実→後深草天皇
 素浄→靈元天皇
 素真→清和天皇
 曾根研三 429
 園基福 405
 素融→後伏見天皇
 尊雲法親王→護良親王
 尊円法親王 336
 尊觀法親王 430
 尊長 310, 315, 426
 尊澄法親王→宗良親王

た

待賢門院(藤原璋子) 244, 247, 249, 250, 255, 260, 268, 453, 455
 醍醐天皇(敦仁親王・金剛宝・帝) 185, 213

～219, 341, 406, 416, 417, 420, 455, 456
 大正天皇 18, 483
 太宗(唐)(李世民) 59, 89, 98, 155
 太宗(北宋) 82
 代 宗 156
 泰 澄 493
 大通院→崇仁親王
 大納言局 288
 大式三位→藤原賢子
 大夫人→当麻山背
 当麻永嗣 153
 当麻治田麻呂娘 185
 当麻山背(大夫人) 120, 121, 128
 平景隆(経高)〈壱岐守護代〉 328
 平清宗 289
 平清盛(浄海・清蓮) 103, 262～264, 266～271, 273～278, 282, 283, 296, 311, 370, 424
 平維盛 277
 平滋子→建春門院
 平重衡 282, 283, 289
 平重盛 268, 274, 275, 277, 278
 平清蓮→平清盛
 平季長 212
 平季基 425
 平資盛 274
 平高棟 270
 平忠正 264
 平忠盛 263, 269
 平経高 319
 平時子 270, 271, 273, 283, 296
 平時忠 271, 277, 296
 平時信 270, 296
 平知盛 296, 311
 平業忠 286
 平信範 267, 277
 平徳子→建礼門院
 平教盛 271
 平将門 220
 平正弘 264
 平正盛 269, 270
 平希世 218
 平宗清 288
 平宗盛 228, 283, 289, 296, 300
 平基親 302
 平盛子 271, 273, 278
 平康頼 276

人名索引(し～せ)

神 叡 186
 真 雅 202
 神功皇后(大后・氣長足姫・氣長足姫尊・息長帶比
 売・息長帶比売天皇・息長足姫天皇・息長足
 姫命・息長足媛尊・息長帶比売命・息長足日
 売皇后・太奈良姫) 40, 45, 47, 48, 50～53,
 81, 82, 90, 134, 149, 155, 181, 195, 411, 446,
 448, 475, 497, 498
 真常恵→光明天皇
 新上東門院(勸修寺晴子) 398, 400
 尋 禪 196
 神宗(北宋) 444
 仁 宗 41
 尋 尊 385
 新待賢門院(正親町雅子) 323, 416, 483
 眞徳王 89
 真如→高岳親王
 親王禪師→早良親王
 新見吉治 485
 神武天皇 20, 34, 35, 48, 124, 224, 429, 441,
 446, 447, 455, 470～473, 484,

す

瑞溪周鳳 75
 推古天皇(大王天皇・小治田大宮治天下大王天
 皇・豊御食炊屋比売命・帝) 38, 59～62,
 64, 65, 67, 73, 75, 76, 79, 85, 470～472, 492,
 497
 垂仁天皇 51, 52, 72, 73, 149
 崇賢門院(広橋仲子) 323, 368
 菅野真道 153, 167～169
 素鵜宮紹仁王→後光明天皇
 菅原為長 419
 菅原長成 326
 菅原道真(北野天神・火雷天神) 186, 211
 ～218, 220, 343, 418, 419
 菅原衍子 214
 菅原寧子 216
 菅原正子 431
 杉山一弥 431
 宿 奈 149
 輔仁親王 243, 244, 259, 424
 典仁親王(慶光天皇) 398, 412, 413, 415, 416
 崇光天皇(興仁親王・益仁親王・勝円心・院・上皇・
 法皇) 323, 353～355, 358, 359, 361～365,
 371, 376, 406

朱雀院→宇多天皇
 朱雀院→後朱雀天皇
 朱雀院上皇→円融天皇
 朱雀院太上皇→宇多天皇
 朱雀天皇(朱雀天王・仏陀寿・寛明親王・院・上皇・
 帝・天王) 218～220, 225, 231, 341, 417
 ～420, 453, 456
 崇峻天皇(帝) 60～62, 66, 79, 85, 445, 470
 崇神天皇(御肇国天皇) 51～53, 72, 473
 鈴鹿王 94, 111
 鈴木景二 69
 鈴木久男 423
 鈴木真年 485
 崇道尽敬皇帝→舍人親王
 崇道天皇→早良親王
 崇徳天皇(顕仁親王・讃岐院・院・上皇・帝)
 225, 228, 249, 251, 255, 260, 262～266, 453
 皇祖母尊→皇極天皇
 諏訪頼重 351

せ

濟 58
 成 王 49
 西華門院 323
 青綺門院(二条舎子) 412
 聖承(小倉宮) 374, 379, 384
 清少納言 234
 清慎公→藤原実頼
 静 帝 130
 清寧天皇(白髮大倭根子命) 52, 497
 成務天皇 52, 72, 79, 473
 清和天皇(惟仁親王・清和院・素真) 185, 186,
 202, 205～208, 212, 226, 404
 関幸彦 426
 世親(Vasubandhu) 491
 藤懷義 451
 絶海中津 367
 宣化天皇 52, 61, 92
 迂興徳 71
 宣光門院 354
 善哉→公暁
 千手丸 259
 千寿丸 301
 宣 帝 210
 宣仁門院(彦子) 317, 424
 千 姫 399

- 島津義久 393
 嶋大臣→蘇我馬子
 島皇祖母命→糠手姫皇女
 持明院基家 288, 311, 312
 下河辺長流 461
 下店静市 424
 周公旦 459
 周 福 330
 宗峰妙超 355
 守覚法親王 280
 朱熹(朱子) 76, 436, 437
 叔 斉 148
 肅 宗 156
 朱子→朱熹
 朱舜水 447, 452
 修明門院(藤原重子) 296, 297
 春屋妙葩 363, 367
 俊 寛 276
 俊 苜 206
 順 帝 58
 順德天皇(佐渡院・守成親王・院・上皇) 225, 228, 296, 297, 305, 306, 311~314, 318, 340, 419, 436, 446
 淳和天皇(大伴親王・日本根子天高讓弥遠尊・院・上皇) 146, 151, 166, 175, 176, 179, 180, 182~185, 199~201, 205, 226, 404
 淳仁天皇(淡路帝・淡路公・淡路廢帝・大炊王・大炊親王・大炊天皇) 83, 93, 106, 114~116, 118~122, 123, 125, 127~130, 135, 136, 142, 144, 153, 193, 194, 227, 228, 266, 311, 446, 487
 定恵(定慧) 106, 190, 191
 勝円心→崇光天皇
 性円法親王 429
 淨海→平清盛
 承快法親王 397
 上宮皇太子菩薩→厩戸皇子
 上宮聖德法王帝→厩戸皇子
 上宮法皇→厩戸皇子
 静 賢 276, 278~280, 425
 襄 公 449
 勝光智→光嚴天皇
 称光天皇(躬仁親王・実仁親王・院) 323, 373~376
 照古王→近肖古王
 肖古王→近肖古王
 上西門院(統子内親王) 264, 268, 287
 清淨覺→上東門院
 精進行→後朱雀天皇
 性信入道親王 256
 昭宣公→藤原基経
 上台宝字称徳孝謙皇帝→孝謙天皇
 章 帝 49
 上東門院(清淨覺・藤原彰子) 108, 219, 234, 237~241, 245, 421, 483
 聖德太子→厩戸皇子
 称徳天皇(阿倍天皇・高野姫天皇)→孝謙天皇 83, 93, 135, 142, 152~155, 161, 197, 227, 403, 451, 473, 487~489, 498
 城長茂(助職) 283
 湘南宗家 458
 少式景資 328
 少式貞経 348
 少式資能(覺恵) 328
 承仁法親王 275
 聖 宝 220, 417
 勝宝感神聖武皇帝→聖武天皇
 勝宝感神聖武皇帝菩薩→聖武天皇
 勝滿→聖武天皇
 聖武天皇(首皇子・後太上天皇・勝宝感神聖武皇帝・勝宝感神聖武皇帝菩薩・勝滿・天璽国押開豊桜彦尊・平城宮御宇後太上天皇・上皇) 33, 34, 36, 37, 68~70, 87, 93, 100~102, 105, 106, 109~115, 117, 118, 129~133, 137, 138, 141~144, 153, 156, 161, 194, 201, 223, 227, 451, 487, 489, 496
 昭明太子 84
 承明門院(源在子) 295, 296
 昭和天皇 8
 諸葛孔明 458
 舒明天皇 84~87
 ジョン = スチュアート = ミル(John Stuart Mill) 439
 白髮大倭根子命→清寧天皇
 白壁王→光仁天皇
 白河天皇(貞仁親王・融觀・院・上皇・帝・法皇) 219, 222, 241~248, 250~253, 255~257, 259~261, 263, 269, 270, 422~424, 450, 452, 453, 457
 斯波高経(道朝) 365
 斯波義廉 383, 384
 斯波義将 364, 365, 371

人名索引(さ～し)

坂上田村麻呂 168, 175, 176
 酒勾家賢 309, 426
 桜井皇子 85
 櫻井陽子 425
 桜町天皇(昭仁親王・上皇) 398, 410, 411
 佐々木定綱 310
 佐々木高氏(導誉・道誉) 360
 佐々木高行 9, 18
 佐々木信実 309
 佐々木信綱 310
 佐々木広綱 306
 佐々木盛綱 309, 310
 貞明親王→陽成天皇
 佐竹秀義 285
 貞常親王(貞常王) 323, 376~378
 貞仁親王→白河天皇
 貞成親王(後崇光院・貞成王・道欽・入道親王道欽) 323, 375~379, 381
 定省親王→宇多天皇
 貞保親王 209
 祐宮師仁親王→光格天皇
 佐藤一斎 438, 468
 佐藤進一 430
 佐藤直方 459
 佐藤長門 188
 叡子内親王 248
 佐渡院→順徳天皇
 識仁親王→靈元天皇
 讚岐院→崇徳天皇
 実仁親王 242~244
 誠仁親王(陽光院) 394, 398
 人康親王娘 215, 219
 佐波良 149
 佐味親王 173
 澤宣嘉 464
 早良親王(親王禪師・崇道天皇) 154, 162
 ~164, 166~169, 173, 174, 186, 197, 198,
 228
 讚 58
 三斤王(文斤王) 57
 三条公忠 368
 三条公教 269
 三条公冬 377
 三条実美 16, 17, 19, 20, 246, 464, 465
 三条実房 295
 三条実躬 428, 429

三条実盛 334
 三条实行 244
 三条敏子→通陽門院
 三条天皇(居貞親王・院・上皇) 219, 225, 231,
 234~236, 243, 244, 256, 424
 三条西公保 377
 三条西実条 399, 403
 三条西実隆 386
 三条西季知 464
 三条治子 323
 三幡(乙姫) 295

し

慈 円 154, 155, 265, 295
 塩焼王(水上塩焼) 93, 116, 127, 139, 162
 志賀漢人慧隠 67
 志貴皇子→施基皇子
 施基皇子(春日宮御宇天皇・志貴皇子・田原天
 皇) 91, 93, 161, 163
 重野安禪 467~469, 473, 477, 478, 480, 485
 重仁親王 262, 263
 子 貢 141
 始皇帝 39, 44, 45, 97
 四条隆譚 464
 四条天皇(秀仁親王・院) 206, 228, 296, 316,
 317, 372
 四条宮(寛子) 424
 志田義広 285
 七条院(藤原殖子) 286, 296, 299
 実 如 385
 持統天皇(鸕野讚良皇女・藤原宮御宇太上天皇・
 上皇) 33, 34, 85, 91~97, 99, 100, 109,
 117, 123, 190, 224, 225, 455, 488
 司馬光 75, 444, 445
 司馬遷 49, 97
 柴野栗山 438
 斯波義廉→しわよしかど
 斯波義将→しわよしゆき
 渋川幸子(大方禪尼) 365
 志摩→多治比島
 斯麻→武寧王
 斯摩→武寧王
 斯麻王→武寧王
 島君→武寧王
 島田三郎 478
 島津貞久 348

287, 423, 473
 近衛信尹 397
 近衛信尋 397, 398, 406
 近衛晴嗣→近衛前久
 近衛尚通 390
 近衛熙子→天英院
 近衛房嗣 377
 近衛基実 244, 261, 266～268, 271, 273
 近衛基嗣 347, 353
 近衛基熙 406～410
 近衛基通 267, 278～280, 284, 286, 290～292, 295, 297
 近衛脩子 409
 近衛龍山→近衛前久
 五宮→東山天皇
 後花園天皇(円満智・彦仁王・上皇・法皇)
 323, 375, 376～380, 382～384, 394, 398, 474
 小林健三 485
 後深草天皇(素実・久仁親王・上皇・法皇)
 296, 318, 319, 321～324, 329, 332～335
 後伏見天皇(行覚・素融・胤仁親王・理覚・上皇・法皇)
 323, 333～335, 337, 339, 342, 345, 346, 349, 351, 352, 362, 418, 428
 後堀河天皇(茂仁王・上皇) 206, 296, 312, 314, 316, 317, 324, 474
 小松院→光孝天皇
 小松帝→光孝天皇
 小松天皇→光孝天皇
 後水尾天皇(円浄・政仁親王・院・上皇・法皇)
 397～401, 403～406, 440, 474
 後村上天皇(義良親王) 323, 350, 355, 358, 359, 361, 364, 365, 382, 416
 後桃園天皇(英仁王・英仁親王) 18, 398, 411, 412, 474
 後陽成天皇(和仁・和仁親王・周仁・院・上皇)
 394, 395, 397～400, 401, 404, 474
 惟明親王 284
 後冷泉天皇(親仁親王) 219, 240, 241, 245, 421, 473
 惟喬親王 205
 伊治咎麻呂 165
 惟仁親王→清和天皇
 惟宗孝言 453, 454, 457
 惟康親王(惟康王・源惟康) 325, 332
 昆支王(軍君・昆支君) 56, 57
 昆支君→昆支王

金剛覺→宇多天皇
 金剛行→後三条天皇
 金剛源→龜山天皇
 金剛性→後宇多天皇
 金剛心→後龜山天皇
 金剛宝→醍醐天皇
 金剛理→後鳥羽天皇
 金剛理→長慶天皇

さ

西園寺鐔子→永福門院
 西園寺公重 351
 西園寺公経 296, 307, 310, 316, 318, 319
 西園寺公衡 334, 338, 350, 428
 西園寺公益 403
 西園寺公通 296
 西園寺公宗 350, 351
 西園寺公望 18, 246
 西園寺実氏 296, 307, 310, 318, 321, 322
 西園寺実兼(悦空) 246, 322, 332, 334, 338, 339, 341, 428
 西園寺実宗 296
 西園寺綸子 296, 318
 西園寺通季 244, 296
 西園寺寧子→広義門院
 西園寺姑子→大宮院
 三枝守政 272
 西光 275～277
 西郷隆盛 11, 467
 西郷従道 12, 14
 済深法親王(一宮) 406
 最澄 181, 184, 201
 最珍(最鎮) 418
 斎藤英喜 187
 齐明天皇(天豊財重日足姬天皇)→皇極天皇
 83, 85, 88, 89, 103, 106, 189, 190, 472, 488, 498, 499
 佐伯有清 71, 73, 198
 佐伯今毛人 126
 佐伯高成 162
 佐伯全成 117
 酒井忠勝 446
 嵯峨天皇(神野親王・院・上皇) 43, 97, 166, 170, 171, 173～185, 189, 199, 200, 202, 206, 209, 224, 226, 236, 487
 坂上莉田麻呂 70, 127, 128

人名索引(こ)

高師直(高階師直) 355~359
 高師冬 357, 358
 光範門院 323
 光武→光武帝
 孝武王 45
 光武帝(光武) 39, 40, 350
 弘文天皇(大友皇子・天皇大友) 34, 90, 91,
 93, 103, 445, 446, 448, 449, 497
 杲宝 200
 功滿王 45
 光明皇后(光明皇太后・中台天平応真仁正皇太
 后) 34, 112~118, 120~123, 141, 144,
 193
 光明皇太后→光明皇后
 光明天皇(真常恵・豊仁親王・上皇・法皇)
 323, 352, 355, 358~363, 445
 孝明天皇 10, 206, 398, 415, 416, 435, 463,
 464, 466, 474
 孝靈天皇 51
 蓋鹵王(加須利君) 56, 57
 顧炎武 468
 後円融天皇(緒仁親王・光浄・上皇・法皇)
 323, 365~368, 370, 378
 護王大明神→和氣清麻呂
 久我顕通 296
 後柏原天皇(勝仁親王) 68, 225, 385~387,
 398
 古賀精里 438
 久我雅実 246
 久我雅通 296
 後龜山天皇(金剛心・熙成親王・院・法皇)
 323, 369, 370, 374, 377, 474
 小川宮 375, 376
 後光厳天皇(弥仁王・院・上皇) 323, 360, 361,
 363~365, 367, 376
 後光明天皇(素鸚宮紹仁王) 398, 403~405
 後小松天皇(幹仁王・院・上皇・法皇) 225,
 323, 366, 368~377, 446, 447, 474
 後西天皇(秀宮良仁親王・院・上皇) 398, 404,
 452
 後嵯峨天皇(邦仁王・上皇・法皇・素覚) 296,
 318, 319, 321, 322, 325, 327, 419
 後桜町天皇(緋宮智子内親王・院・上皇) 398,
 412~415, 463
 後三条天皇(金剛行・尊仁親王・院・上皇・法皇)
 219, 240~246, 251, 254, 340, 423, 429, 473

児島高德 468, 481, 482
 五条頼元 350
 後白河天皇(行真・雅仁親王・上皇・法皇)
 197, 244, 260, 263, 268, 270~294, 296, 354,
 419, 436, 441, 442, 450, 451, 457, 474
 後崇光院→貞成親王
 後朱雀天皇(敦良親王・精進行・御門・朱雀院)
 219, 234, 235, 239, 240, 243, 244, 254, 419
 巨勢親王 172
 巨勢金岡 422
 巨勢堺麻呂(巨勢開麻呂) 116
 巨勢徳太 88, 89
 巨勢野足 177
 後醍醐天皇(尊治・尊治親王・院) 158, 222,
 323, 336, 339~349, 351~353, 355, 356, 372,
 381, 382, 419, 429~431, 445~447, 449, 450,
 455, 456, 474, 483
 後太上天皇→聖武天皇
 五代友厚 9
 後高倉院→守貞親王
 後高倉法皇→守貞親王
 後土御門天皇(成仁王・成仁親王) 382, 384,
 385, 398, 406, 419, 474
 後藤象二郎 11
 後藤基綱 320
 後鳥羽天皇(顯徳院・金剛理・尊成親王・良然・院・
 上皇・法皇) 225, 228, 255, 265, 284, 286,
 289, 292, 293, 295~300, 303~306, 309~314,
 317, 341, 352, 422, 426, 445, 450
 後奈良天皇(知仁親王) 225, 386~389, 393,
 398, 474
 軍君→昆支王
 後二条天皇(邦治王・邦治親王) 323, 332, 334
 ~336, 339, 381, 382
 近衛家実 297, 306, 312, 316, 317
 近衛家久 410
 近衛家平 347
 近衛内前 412
 近衛兼経 317, 318, 321
 近衛前子→中和門院
 近衛前嗣→近衛前久
 近衛前久(前嗣・晴嗣・龍山) 390~395, 397
 近衛種家 390
 近衛経忠 347
 近衛経平 347
 近衛天皇(体仁親王) 244, 255, 260~264,

黒田長知 17

け

桂庵玄樹 440
 景行天皇(大帯日子淤斯呂和氣天皇) 52, 72, 73, 79
 慶寿院 390, 395
 継体天皇(男弟王・男大迹天皇・袁本杵命) 8, 52, 55, 56, 61, 473, 474
 契沖 461
 源威公→徳川頼房
 元開→淡海三船
 玄輝門院 323
 賢俊 352
 建春門院(平滋子) 270, 271, 275, 296
 建春門院新大納言 277
 玄奘 137
 元正天皇(飯依天皇・永高内親王・平城宮御宇中太上天皇・上皇) 33, 34, 83, 93, 104~106, 109, 114, 117, 141, 489
 顯親門院 323
 玄宗 112, 113, 119, 139, 199
 顯宗天皇(弘計王・袁祁命) 52, 83, 474, 497, 498
 顯徳院→後鳥羽天皇
 謙徳公→藤原伊尹
 玄昉 111~113, 122, 191, 192
 賢宝 200
 元明天皇(阿閉天皇・阿閉皇女・上皇・帝) 19, 48, 79, 83, 85, 87, 93, 95, 100~102, 104~107, 109, 110, 117, 190, 224, 455, 473, 489
 乾隆帝 97
 建礼門院(平徳子) 275, 278, 296

こ

小泉八雲(パトリック=ラフカディオ=ハーン・ハーン) 476, 477, 485
 小一条院(敦明親王) 235, 236
 後一条天皇(敦成親王) 219, 234, 235, 237, 239, 245
 興 58
 皇円 36
 光格天皇(祐宮師仁親王・兼仁親王・上皇) 7, 19, 27, 398, 412~415, 435, 474, 482, 483
 皇嘉門院(藤原聖子) 264, 424
 広義門院(西園寺寧子) 51, 323, 360~363,

428, 483

皇極天皇(天豊財重日天皇・天豊財重日足姬天皇・皇祖母尊・宝皇女・宝女王・上皇)→齊明天皇 38, 83~87, 96, 188~191, 473, 488, 498
 孝謙天皇(阿倍内親王・孝謙上皇・孝謙法皇・高野天皇・上台宝字称徳孝謙皇帝・法基尼・上皇・法皇)→称徳天皇 34~36, 93, 110, 111, 113, 114, 116~118, 120~126, 128~130, 135~147, 152, 157, 193~195, 197, 227, 451, 487, 488, 498
 高興 41
 光孝天皇(小松院・小松帝・小松天皇・時康親王) 185, 209, 214, 224, 225, 376, 401, 416
 光厳天皇(量仁親王・光厳法皇・光智・勝光智・無範・院・上皇・法皇) 323, 339, 342, 343, 345~349, 352~356, 359~365, 384, 428, 431, 445, 446, 483
 孔子(文宣王) 49, 139, 141, 459
 恒寂→恒貞親王
 光周(周禪) 389
 光浄→後円融天皇
 高祖(前漢)(漢高祖皇帝・漢高皇帝・劉邦) 43, 71
 高祖(隋) 59
 高祖(唐)(李淵) 98
 孝宗(南宋) 97
 高宗(唐) 59, 63, 98, 99, 155, 192
 高宗(南宋) 97
 黄宗羲 468
 公孫康 49
 公孫度 49
 好太王 44
 故右大將軍→源頼朝
 後宇多天皇(金剛性・世仁親王・上皇・法皇) 222, 322~324, 331, 332, 334~340, 342, 429
 光智→光厳天皇
 河内春人 73
 孝徳天皇(天万豊日天皇・輕皇子) 84~89, 96, 188~191, 473
 光仁天皇(広仁天皇・白壁王・上皇) 93, 109, 139, 146, 151, 153, 156, 157, 161~165, 227, 473
 広仁天皇→光仁天皇
 江匡房→大江匡房

人名索引(き〜く)

京極為兼(静覚・蓮覚) 336~339, 428
 京極局 280
 京極宮文仁親王 409
 京極蓮覚→京極為兼
 行助入道親王→守貞親王
 堯恕法親王 406, 407
 行 信 134
 行真→後白河天皇
 恭帝(隋)(楊侑) 98
 恭帝(南宋) 330
 教 念 312
 卿局(藤原兼子・卿二位) 297, 301
 刑部卿局→高倉範子
 岐陽方秀 440
 恭礼門院(一条富子) 411
 魚 拳 46
 許 慎 39
 清原夏野 177
 清原頼業 227, 273, 279
 清丸→和氣清麻呂
 清麻呂→和氣清麻呂
 清麿→和氣清麻呂
 吉良満貞 360, 364
 近仇首王(氣須王・貴首王・貴須王・久素王)
 43, 44, 48, 169
 近肖古王(肖古王・照古王) 41, 42, 44
 金信福 105
 金富賦 41, 73
 金方慶 329
 欽明天皇(天國排開広庭天皇・帝) 38, 52, 61,
 62, 79, 82, 85, 240, 471

<

ガイド=ヘルマン=フレドリク=フルベッキ
 (Guido Herman Fridolin Verbeck) 479
 空 海 178, 180, 181, 202, 206, 335, 417
 空覚→鳥羽天皇
 空理→宇多天皇
 孔穎達 59
 公暁(善哉) 301, 303, 305
 草壁皇子(岡宮御宇天皇・日並皇子・日並知皇子
 命) 91~93, 96, 100, 102, 118
 九条院(藤原呈子) 260, 262, 287
 九条兼実 227, 228, 244, 265, 279, 288~297,
 301, 303, 424, 489
 九条行惠→九条道家

九条行智→九条頼経
 九条立子 296
 九条経教 371
 九条任子→宜秋門院
 九条の廢帝→仲恭天皇
 九条教実 296, 317
 九条廢帝→仲恭天皇
 九条尚忠 463
 九条仁子 317
 九条道家(行惠) 296, 303, 306, 312, 317, 318,
 321, 424
 九条三寅→九条頼経
 九条罇子→藻壁門院
 九条良輔 301
 九条良経 295~297, 427
 九条頼嗣 320, 321
 九条頼経(行智・三寅) 296, 301, 303, 305,
 307, 316, 317, 320, 321, 427
 楠木正成 345, 346, 349, 352, 355, 359, 458,
 468
 楠木正行 355, 468
 楠木正儀 359, 360, 364, 369
 久素王→近仇首王
 百済王愛釜 177
 百済永継(藤原内麻呂妻) 201
 屈 原 458
 久 氏 40
 忽 敦 328, 329
 邦子内親王→安嘉門院
 久邇宮朝彦親王(中川宮) 10
 邦治王→後二条天皇
 邦治親王→後二条天皇
 邦仁王→後嵯峨天皇
 邦康親王 382
 邦良親王 323, 339, 342, 343, 349, 381
 クビライ(Khubilai) 325~331, 428
 熊谷公男 75
 熊谷直之 430
 久米邦武 28, 29, 160, 198, 469, 476~479,
 484, 485, 491
 来目皇子 127
 鞍作福利 64, 65
 栗田寛 448
 栗山潜鋒 452, 453
 グレゴリウス十三世(Gregorius XIII) 471
 黒田清隆 9, 12, 14

賀茂宮 401
 高陽院(藤原泰子・藤原叡子) 244, 247, 248,
 260, 264
 嘉楽門院 382, 398
 烏丸光広 399
 狩谷椽斎 69
 輕嶋豊明宮馭宇天皇→応神天皇
 輕皇子→孝徳天皇
 珂瑠皇子→文武天皇
 輕皇子→文武天皇
 河上娘 61
 河上麻由子 67, 74
 川島皇子 91
 川田甕江(剛) 467, 468
 川田剛→川田甕江
 開中費直織人 55
 漢高皇帝→高祖
 漢高祖皇帝→高祖
 觀察使→藤原仲成
 関山慧玄 355
 寛助(法師関白・法の関白) 256, 424
 鑑真 35, 126, 143, 144, 192, 194, 201
 巫別 42
 桓武天皇(皇統弥照天皇・山部親王・帝) 19,
 35, 43, 147, 149~154, 161~170, 172, 173,
 181, 185, 196, 199~201, 209, 251
 観勒 471
 甘露寺親長 384

き

飯依天皇→元正天皇
 義淵 122
 祇園女御(白河殿) 270
 菊池武敏 351
 菊池武房 328
 吉士雄成 65
 宜秋門院(九条任子) 294~296, 424
 貴首王→近仇首王
 基真 137, 140
 気須王→近仇首王
 貴須王→近仇首王
 喜田貞吉 69, 481
 堅塩媛 61
 北白河院(藤原陳子) 296, 311
 北野天神→菅原道真
 北島顕家 349~351, 355

北島顕能 359
 北島覚空→北島親房
 北島宗玄→北島親房
 北島親房(覚空・宗玄・源親房) 155, 157, 158,
 224, 325, 332, 343, 349, 350, 359, 361, 382,
 454, 456
 北島満雅 379
 北山院(日野康子) 372, 373
 北山茂夫 175, 200
 魏徴 59
 吉徳門院(万里小路栄子) 398, 483
 木寺宮邦康王 381
 木戸孝允 198
 紀阿雨麻呂 104
 紀飯麻呂 104, 125
 紀大人 104
 紀古佐美 166
 紀古麻呂 104
 紀静子(紀名虎娘) 205
 紀田上 175
 紀貫之 217
 紀椽姫 161
 紀友則 217
 紀豊城 207
 紀夏井 207
 紀長谷雄 212, 221
 紀広純 165
 紀麻呂(紀麻路) 103, 104
 紀麻路→紀麻呂
 吉備津彦 72
 吉備内親王(吉備聖霊) 93, 110, 186, 187
 吉備聖霊→吉備内親王
 吉備大臣→吉備真備
 吉備真備(吉備大臣) 112, 113, 127, 128, 137,
 143, 156, 186, 192, 194
 吉備姫王 85, 87
 吉備藤野和気真人→和気清麻呂
 黄文王 116, 117
 木本好信 123, 125, 193, 194
 弓遵 46
 行覚→後伏見天皇
 行基 36, 113, 122
 姜沆(Kang hang) 440
 慶光天皇→典仁親王
 京極院 323
 京極静覚→京極為兼

人名索引(お～か)

乎止与命 72
 乎那利 65
 小野妹子(小野臣妹子・蘇因高) 64, 65, 67, 130, 131
 小野臣妹子→小野妹子
 小野盛綱 306, 310
 小治田大宮治天下大王天皇→推古天皇
 小墾田皇女 61
 緒仁親王→後円融天皇
 首皇子→聖武天皇
 意富祁命→仁賢天皇
 袁本杼命→繼体天皇
 乎麻呂 149
 小山田義夫 425
 小山朝政 431
 折口信夫 79, 187
 織瀬 461
 尾張日子媛 61

か

開化天皇 52, 73, 82, 473
 カイドウ(Khaidu) 325
 開明門院 415
 嘉喜門院 323
 覚円 256
 覚海円成(覚海尼) 344
 覚行法親王 257
 赫居世居 72
 霍光 210
 覚山尼(堀内殿・松岡殿) 324
 覚静→守良親王 347
 觉性入道親王→觉性法親王
 觉性法親王(觉性入道親王) 263, 281
 觉深入道親王(良仁王・良仁親王) 396, 397
 觉貞→村上天皇
 觉法法親王 247
 觉猷(鳥羽僧正) 256, 424
 笠江人娘 173
 花山院家忠 246
 花山院家経 297
 花山院兼雅 297
 花山院通定 371
 花山天皇(師貞親王・院・法皇) 219, 224, 225, 230~233, 420
 勸修寺一位→勸修寺経顕
 勸修寺嫡子 413

勸修寺経顕(勸修寺一位) 348, 360, 362
 勸修寺晴子→新上東門院
 勸修寺光豊 400
 何承天 471
 柏木義兼 282
 春日棕→春日倉老
 春日蔵→春日倉老
 春日倉老(春日蔵・春日棕・春日老) 81, 187, 188
 春日宮御宇天皇→施基皇子
 和宮(親子内親王) 464
 和仁→後陽成天皇
 和仁親王→後陽成天皇
 加須利君→蓋鹵王
 荷田春満 461
 周仁→後陽成天皇
 良仁王→覚深入道親王
 良仁親王→覚深入道親王
 勝浦令子 197
 勝仁親王→後柏原天皇
 葛城王→橘諸兄
 葛城磐之媛 110
 葛城皇子→天智天皇
 葛城襲津彦 44
 桂太郎 481
 加藤弘之 22, 479
 葛野王 93, 96
 迦邇米雷王 52
 金子堅太郎 17
 金沢貞顕(北条) 342, 344
 金沢貞将(北条) 342
 懐成親王→仲恭天皇
 懐良親王(日本国王良懐) 352, 369, 372
 狩野為佐 320
 鹿野政直 485
 鎌倉惠源太義平→源義平
 上毛野大川 153
 上毛野頼人 176
 上道斐太都 116
 神野親王→嵯峨天皇
 亀菊(伊賀局) 303, 312
 龜山天皇(金剛源・恒仁親王・上皇・法皇) 18, 296, 322~324, 326, 328~335, 347, 382, 430
 蒲生君平 484
 加茂比売 93
 賀茂真淵 461

394, 398, 446, 474, 483
 正親町雅子→新待賢門院
 大王天皇→推古天皇
 大久保利謙 485
 大久保利通 12, 465
 大隈重信 9, 10, 15
 大倉岐命 72
 大鷦鷯天皇→仁徳天皇
 凡河内躬恒 217
 大田皇女 91
 大帯日子淤斯呂和気天皇→景行天皇
 大槻東陽 444
 大津透 75
 大津皇子 91, 92
 男弟王→継体天皇
 男大迹天皇→継体天皇
 大友貞宗 348
 大伴親王→淳和天皇
 大友宗麟(義鎮) 390
 大伴犬養 125
 大友皇子→弘文天皇
 大伴弟麻呂 168
 大伴古麻呂 116
 大伴竹良 162
 大伴継人 162
 大伴家持 79, 125, 126, 162, 164
 大友頼泰 327, 328
 大中臣清麻呂 173
 太安万侶 48, 79
 大庭景能 430
 大橋一章 75
 大長谷若建命→雄略天皇
 大泊瀬幼武天皇→雄略天皇
 大彥命 72
 大 姫 294, 295
 意富富杼王 52
 大倭女王 85
 大宮院(西園寺姑子) 296, 318, 322
 大神杜女 133, 134
 大森亮尚 198
 大宅鷹取 207
 大山巖 14
 大倭根子天之広野日女尊→持統天皇
 小笠原長重 408
 岡田寒泉 438
 岡田啓介 454

岡野貞一 482
 岡宮御宇天皇→草壁皇子
 小鴨基康(基保) 287
 興子女王→明正天皇
 居貞親王→三条天皇
 気長足姫→神功皇后
 息長帯比売→神功皇后
 息長足日壳皇后→神功皇后
 息長帯比売天皇→神功皇后
 息長足姫天皇→神功皇后
 気長足姫尊→神功皇后
 息長足姫命→神功皇后
 息長足媛尊→神功皇后
 息長帯比売命→神功皇后
 息長宿禰王 52
 息長真手王 61
 興仁親王→崇光天皇
 荻生徂徠 460
 奥野高廣 432
 奥山朝恭 481
 小倉公連 406
 小倉実起 406
 小倉宮→聖承
 億計王→仁賢天皇
 意祁命→仁賢天皇
 刑部親王(忍壁皇子) 91, 94, 104
 忍壁皇子→刑部親王
 他戸親王 162, 163, 186
 大仏家時(北条) 346
 牡鹿島足 128
 忍熊別皇子 149
 忍坂大中姫 52
 押坂彦人大兄皇子 61, 85
 忍海郎女→飯豊青皇女
 忍海飯豊青尊→飯豊青皇女
 忍海部女王→飯豊青皇女
 織田信雄 394
 織田信忠 394
 織田信長 391~394
 織田信秀 392
 落合直文 481
 オットー = フォン = ビスマルク (Otto Eduard
 Leopold von Bismarck-Schönhausen) (ビス
 マルク) 12, 13
 小殿王→平城天皇
 弟彦王 149

人名索引(う～お)

太秦公宿禰 44
 宇多天皇(空理・金剛覺・朱雀院・朱雀院太上皇・
 亭子院・定省親王・源定省・六条院太上皇・
 院・上皇・帝・法皇) 185, 209～216, 218,
 220, 221, 224, 225, 417, 443, 445, 453～455,
 455, 481, 487
 内田啓一 430
 内田正男 71
 宇都宮氏綱 364
 宇都宮信房(道賢) 206
 鷗野讚良皇女→持統天皇
 宇文化及 98
 厩戸豊聡耳皇子→厩戸皇子
 厩戸皇子(厩戸豊聡耳皇子・上宮厩戸豊聡耳太
 子・上宮聖德法王帝・上宮皇太子菩薩・上宮
 法皇・聖德太子・東宮聖王・豊耳聡聖德・豊聡
 耳法大王・法主王) 38, 60～62, 67, 68,
 76, 85, 91, 445, 471, 491
 卜部兼方 34
 裏松固禪(光世) 414
 上横手雅敬 426
 運慶 281, 491
 芸亭居士→石上宅嗣

え

英 俊 392
 英 宗 444
 睿 宗 99, 155
 叡 尊 201
 永福門院(西園寺鐔子) 323, 334, 349
 永楽帝 374
 恵 超 156
 悦空→西園寺実兼
 エドアルド・キヨッソネ(Edoardo Chiossone)
 198
 江藤新平 11
 朴井雄君(櫻井小君) 103
 えみの大内→藤原仲麻呂
 恵美押勝→藤原仲麻呂
 恵 琳 156
 円観(慧鎮) 345, 349
 円恵法親王 286
 円 興 137, 140, 157
 延興徳 70, 71
 円浄→後水尾天皇
 遠藤慶太 197

円 爾 319, 333
 円 仁 184
 円満智→後花園天皇
 円融天皇(朱雀院上皇・守平親王・院・上皇・法
 皇) 3, 82, 219, 222～225, 229～232, 236,
 254

お

小姉君 61
 乎非王 52
 王羲之 84
 王 狗 43
 王 充 49
 応神天皇(輕嶋豊明宮馭宇天皇・誉田天皇)
 41, 42, 44, 45, 51～54, 70, 71, 134, 201, 304,
 449, 474
 淡海居士→淡海三船
 近江天皇菩薩→天智天皇
 淡海三船(淡海居士・元開・御船王) 34, 35,
 68, 83, 93, 153, 194, 195
 王 莽 350
 大海人皇子→天武天皇
 大炊王→淳仁天皇
 大炊親王→淳仁天皇
 大炊天皇→淳仁天皇
 大炊御門經実 246
 大炊御門經宗 267～269, 271, 274, 297
 大炊御門信宗 382
 大炊御門頼実 297, 298
 大内惟信 306, 310
 大内惟義 306
 大内弘世 364
 大内政弘 383, 384
 大内義隆 386, 440
 大内義弘 371, 372
 大江覚阿→大江広元
 大江親広(蓮阿) 306, 315
 大江広元(覚阿・中原広元) 290, 300, 305,
 306, 308, 316, 321, 435, 436
 大江匡房(匡匡房) 453, 457
 大江蓮阿→大江親広
 大神田麻呂(大神多麻呂) 133, 134
 正親町公明 415
 正親町公通 408, 458
 正親町三条公積 412
 正親町天皇(方仁親王・上皇) 388, 389, 391,

石川難波麻呂 81
 石作皇子 189
 石塔頼房 360, 364
 石原道博 71
 石姬皇女 61
 泉親衡 301
 伊勢大鹿首小熊女 85
 伊勢老人 171
 伊勢継子 171, 172
 石上乙麻呂 104
 石上麻呂 94, 103~106
 石上宅嗣(芸亭居士) 35, 68, 104, 126
 板垣退助 11
 板倉重宗 403
 一条昭良(兼暹) 397, 398, 403
 一条家経 326
 一条内基 397
 一条兼香 410, 411
 一条兼輝(冬経) 406, 407, 410
 一条兼暹→一条昭良
 一条兼良 376~378, 382, 385
 一条実経 296, 321
 一条経嗣 373
 一条経通 373
 一条天皇(懷仁親王・上皇) 196, 219, 225, 230
 ~232, 234, 236, 254, 420
 一条信能 314
 一条冬経→一条兼輝
 一条全子 307
 一条道香 411, 412
 一条能保 288, 307, 308, 310, 312, 314
 一条頼氏 308
 一の台(一の御台所) 397
 市辺押磐皇子 52
 市原王 163
 一 幡 298
 一山一寧 331, 333
 五辻宮 429
 五辻宗子 323
 伊藤仁斎 460
 伊藤博文 9, 10, 12~17, 20~24, 27, 28, 131,
 416, 438, 439, 466
 伊東巳代治 17, 21
 犬養毅 481
 井上馨 12, 14, 16
 井上毅 15, 17, 19~24, 29, 439, 480

井上内親王 93, 161~163, 166, 167, 186, 198
 井原今朝男 420
 今井修 485
 今川氏輝 386
 今川義元 391
 今川了俊(貞世) 372
 新漢人大隈 67
 新漢人広済 67
 新漢人日文 67
 今州利 55
 今出川兼季 246, 347
 今出川公言 412
 今出川公直 371
 今出川晴季 397
 弥仁王→後光厳天皇
 壹与(台与) 47, 48
 伊予親王 172~175, 186
 威烈王 444
 岩倉具選 463
 岩倉具視 12, 14~16, 28, 464, 465
 磐梨別公→和氣清麻呂
 允恭天皇 52
 殷富門院(亮子内親王) 292
 斎部広成 48

う

ウィリアム=シェークスピア(William
 Shakespeare) 480
 ヴィルヘルム一世(Wilhelm I) 12, 13
 植垣節也 187
 上杉和彦 425
 上杉清子 347
 上杉謙信(長尾景虎・長尾輝虎) 389~393,
 399
 上杉重能 357
 上杉禪秀(氏憲) 373
 上杉道昌→上杉憲顕
 上杉憲顕(道昌) 356~358, 364, 379
 上杉憲実 379
 上杉憲政 390
 上宮厩戸豊聡耳太子→厩戸皇子
 魚澄惣五郎 426
 宇治天皇→菟道稚郎子
 菟道稚郎子(宇治天皇・宇治稚彦皇子) 42,
 52, 82, 201
 宇治稚彦皇子→菟道稚郎子

人名索引(あ～い)

敦成親王→後一条天皇
 敦文親王 243
 敦実親王 216
 敦康親王 234
 安殿親王→平城天皇
 高貴宮識仁王→靈元天皇
 阿豆流為 166
 穴穂部間人皇女 61
 穴穂部皇子 58
 阿野廉子 416
 阿野実為 369
 安倍晋三 7
 阿閉天皇→元明天皇
 阿倍天皇→称徳天皇
 阿倍内親王→孝謙天皇
 阿倍内麻呂 85
 阿倍小足媛 85
 阿倍清繼 177
 阿倍宿奈麻呂(阿倍小黒麻呂) 112
 阿倍仲麻呂(朝衡) 112, 192
 阿閉皇女→元明天皇
 阿倍比羅夫 88
 阿倍御主人(布施御主人) 92, 94
 安倍安仁 236
 阿保親王 172, 183
 皇統弥照天皇→桓武天皇
 天豊財重日天皇→皇極天皇
 天豊財重日足姫天皇→皇極天皇
 天豊財重日足姫天皇→齐明天皇
 尼法均→和気広虫
 尼御台所→北条政子
 網野善彦 74
 天国排開広庭天皇→欽明天皇
 天璽国押開豊桜彦尊→聖武天皇
 阿每多利思比狐(阿每・多利思比狐) 59, 62, 63
 雨森芳洲 461
 天万豊日天皇→孝徳天皇
 惠仁親王→仁孝天皇
 新井白石(君美) 409, 461
 荒田別 42
 有間皇子 85
 アルベルト = モッセ(Allbert Mosse) 13
 淡路帝→淳仁天皇
 淡路公→淳仁天皇
 淡路廢帝→淳仁天皇

粟田口吉光 390
 粟田諸姉 114
 安嘉門院(邦子内親王) 296, 324
 安閑天皇 52, 61
 安康天皇 52
 安城公 156
 安藤信正 466
 安藤礼二 187
 安德天皇(言仁親王) 27, 227, 228, 278, 280, 284, 289, 296, 422, 435, 445, 453, 455
 安祿山 156

い

飯豊青皇女(飯豊王・飯豊郎女・飯豊女王・飯豊青姫・飯豊青尊・飯豊天皇・忍海郎女・忍海部女王・忍海飯豊青尊) 52, 83, 474, 497, 498
 飯豊青尊→飯豊青皇女
 飯豊青姫→飯豊青皇女
 飯豊郎女→飯豊青皇女
 飯豊王→飯豊青皇女
 飯豊女王→飯豊青皇女
 飯豊天皇→飯豊青皇女
 井伊直弼 464
 飯沼賢司 72, 194
 伊 尹 210
 五百枝王 163
 伊賀朝光 302, 307
 伊賀朝光娘(伊賀方) 302
 伊賀局→亀菊
 伊賀光季 307
 伊吉博得 191
 生江臣家道女 496
 生江臣大田女 496
 生江恒山 207
 的戸田宿禰 44
 郁芳門院(媯子内親王) 244, 245, 251, 422
 池禅尼(藤原宗子) 263, 288
 池辺王 93
 池辺大宮治天下天皇→用明天皇
 池辺義象(小中村義象) 29
 威公→徳川頼房
 イサーク = ティチング(Isaac Titsingh) 446
 勇山国鳥 189
 勇山連文繼 189
 石川年足 125, 126, 133
 石川名足 153

人名索引

あ

- 会沢正志斎 447, 463
 県犬養広刀自 93, 111
 県犬養三千代 93, 102, 111
 赤橋英時(北条) 348
 赤橋守時(北条) 344, 348
 赤松則村(円心) 346, 347
 赤松教康 379, 380
 赤松満祐(性具) 379, 380
 観子内親王→宣陽門院
 章子内親王→二条院
 暲子内親王→八条院
 秋篠安人 153
 顕仁親王→崇徳天皇
 明智光秀 393, 394
 緋宮智子内親王→後桜町天皇
 安積親王 93, 111
 安積澹泊 447, 452
 朝倉孝景 386
 朝野鹿取 177
 浅原為継 333
 浅原為頼 333, 334
 浅原光頼 333
 朝仁親王→東山天皇
 浅見綱斎 458~460
 足利惠源→足利直義
 足利千寿王→足利義詮
 足利尊氏(足利高氏) 346~349, 351~353,
 356~361, 364, 431
 足利直冬 358, 360, 361
 足利直義(惠源) 349~351, 353, 356~361,
 364
 足利道義→足利義満
 足利道有→足利義満
 足利春王丸 379
 足利政知 384
 足利持氏 379
 足利基氏 357, 359, 364
 足利安王丸 379
 足利義昭 392~395, 397
 足利義詮(千寿王) 348, 357, 359~361, 364,
 365, 373
 足利義氏 308
 足利義量 375
 足利義勝 381
 足利義澄(義高) 384~386
 足利義種(義材) 386
 足利義嗣 373
 足利義輝 388, 390~392, 399
 足利義教(義宣) 375, 377~379, 383
 足利義晴 386, 390
 足利義久(八幡太郎) 379
 足利義尚 384
 足利義榮 392
 足利義政 383~395
 足利義視 384
 足利義満(日本国王源道義・日本国准三后源道
 義・道義・道有・鹿苑院) 319, 365~375,
 378~380, 430, 436
 足利義持 371, 373~375
 飛鳥浄原宮御宇天皇→天武天皇
 安宿王 116
 安宿媛→藤原光明子
 按察局 368
 安達景盛 307
 安達盛長 307
 安達泰宗 344
 安達泰盛 324, 327, 332
 安達義景 324, 427
 阿達羅尼師今 73
 阿智王→阿直岐
 阿直岐(阿智王・阿直伎・阿知吉師・阿知使主・阿
 智使主) 41~43, 54, 70, 71
 阿知吉師→阿直岐
 阿直史 41
 阿知使主→阿直岐
 阿智使主→阿直岐
 敦明親王→小一条院
 敦仁親王→醍醐天皇
 篤子内親王 424
 敦良親王→後朱雀天皇

じょうこう ほうおう れきし せんとうねんだい き
上皇と法皇の歴史 —仙洞年代記—

2021年11月30日 初版第一刷発行 定価（本体15,000円＋税）

著者 槇 道 雄
発行所 株式会社 八木書店出版部
代表 八木 乾 二
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8
電話 03-3291-2969(編集) -6300(FAX)
発売元 株式会社 八木書店
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8
電話 03-3291-2961(営業) -6300(FAX)
<https://catalogue.books-yagi.co.jp/>
E-mail pub@books-yagi.co.jp

ISBN978-4-8406-2250-9

印刷 平文社
製本 牧製本印刷
用紙 中性紙使用

©2021 MICHIO MAKI